Ⅲ　中学校における校内研修の取組

『自ら学び、高め合う生徒の育成～学び合い、伝え合う学習指導の工夫～』

秩父市立秩父第一中学校

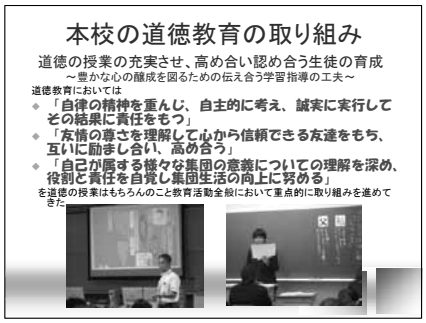
1　研究主題および主題設定の理由

(1)研究主題

自ら学び、高め合う生徒の育成
～学び合い、伝え合う学習指導の工夫～

(2) ２年目を迎えて

本研修主題を設定して２年目を迎えた。主題を受けて校内研修で先生方が研鑽を積んでいるのはもちろん日々の授業実践で本主題をテーマに授業を行っている。また今年度、数学では学習形態の工夫を１年通して２学年で研究を行っている。



(3)本年度行っている研究

教科　数学（２学年）

基礎・基本の定着を図り、主体的な学習をうながす指導方法に関する研究
－学習内容に応じた TT・少人数指導など学習形態の工夫を通して－

TT による一斉授業・習熟度別少人数指導・単純な少人数指導など学習形態を、領域や単元、学習内容、導入・展開・終末など場面に応じて工夫を図っている。

単元の導入は TT による一斉授業を行い、生徒に身につけてほしい共通事項の指導を行っている。課題に取り組む、練習する時間は、習熟度別少人数指導で行い、実態にあった学習課題を与えることで基本的事項の確認、習得を図る。課題の提示の方法や指導法も工夫している。

また、作業を伴う学習やコンピュータを利用した学習、話し合いや学び合う場面においては、単純２分割少人数指導を行っている。

１年間、学習形態の工夫を通して、基礎基本の定着はもちろんのこと主体的な学習をうながす指導方法を追究する。実践授業と事前事後調査（意識の変容、理解の度合い、自己評価カードや小テストなど）を用いて効果の検証を行う。このような研究を行う上で、教材教具等の充実を図り、整った環境で学習効果を得られるよう取り組んでいる。

１学期終了後に行った意識アンケートでは以下のような結果になった。
通常の一斉指導より，少人数指導等（ＴＴ）の授業の方が

わかりやすい　80%　　質問しやすい　72%　　発表しやすい　78%

3　平成２４年度研修のあゆみ

４月１２日	校内研修	今年度の校内研修について
５月１７日	校内研修	教育相談について
６月１１日	校内研修	初任者・若手教員に向けて道徳教育推進教師が示範授業
６月２８日	校内研修	道徳に関する研修①　道徳の時間への参画意識を高める研修
８月３０日	校内研修	道徳に関する研修②　資料分析　資料「津波てんでんこ」
９月２０日	校内研修	要請訪問①３年生「理科」（斉藤博文教諭）
１０月２５日	校内研修	体力向上①（怪我防止に向けたトレーニング方法）生徒と共に
１１月１４日	研究発表	関東甲信越中学校道徳教育研究大会にて道徳実践発表
		千葉県市川市姉ヶ崎東中にて　飛川成正教諭
１１月２２日	校内研修	前期を終えての中間反省・振り返り
１２月・１月	指導案検討	道徳教育推進教師と授業者、道徳部会を中心に行う
	先行授業	２学年で行う予定（１２月末現在）
１２月１３日	校内研修	体力向上②（怪我防止に向けたトレーニング方法）生徒と共に
１月１７日	校内研修	要請訪問②２年生「道徳」（松島かほり教諭）
２月　２日	校内研修	新年度に向けて本校の課題を見つけ、その方策を考える

4　具体的な取組

本年度行われた校内研修から具体的な取組を２つ取り上げ、その概要を述べる。

(1)要請訪問での授業実践

ア　３学年の実践

単元　　「運動とエネルギー」

単元の目標　力や物体の運動についての観察・実験を行い、力の基本的な性質を理解して運動の規則性に気づくとともに､力学的エネルギーに関わる実験を行い、仕事の概念を導入してエネルギーの移り変わりと保存について理解し、日常生活や社会と関連づけながら運動とエネルギーの見方や考え方を養う。

イ　研究主題との関わり

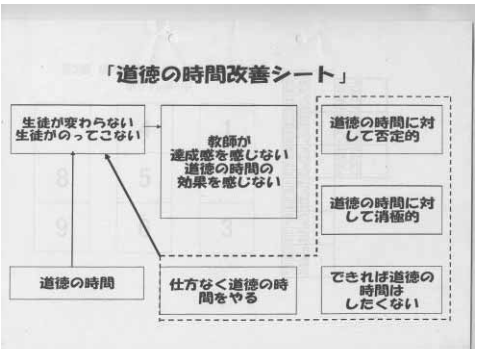
実験を通して、教え合いや学び合い活動を取り入れている。また予想を立て、実験を行い結果と比較して考察し、振り返ることで理解・定着を図る。

(2)道徳「道徳の時間への参画意識を高める研修」

ア　ねらい

道徳の時間についても、すべての教職員が協力することの必要性を理解する。

教師相互の指導方法等の学び合いが、道徳の時間の質を高めることに気づく。



イ　意義

全教職員が主体的な参画意識をもってそれぞれの役割をつとめ、生徒の実態や授業の進め方などに共通の関心や問題意識をもって授業に臨むことができる。そのなかで、教師相互の指導方法等の学び合いが促され、道徳の時間の質が高まる。

ウ　流れ

「道徳の時間改善シート」説明→付せん紙記入→ＫＪ法で付せん紙の整理→ＫＪ法で短冊の整理→改善策から効果の予想→改善策の検討→発表・全体協議・振り返り

5　おわりに

(1)　成果

作業や協議・活動など職員が積極的に参加できる「参加型」の研修を行なった。多くの先生方が積極的・意欲的に各研修に参加していた。グループ協議では先生方の活発な意見交換が行われた。

(2)　課題

昨年度に引き続き、１つの研修に時間を充分取ることができなかった。来年度に向け、本校の抱える課題を把握、整理し研究課題の見直しなど今年度中に準備を進めたい。

（担当　教諭　飛川　成正）

「確かな学力と豊かな心の育成を目指した指導の工夫」

確かな学力を育む授業の創造・教育に関する３つの達成目標の具現化・豊かな心の育成

秩父市立秩父第二中学校

１　研究の概要

（１）研究主題設定の理由

本校の学校目標である「心豊かで自立して生きる生徒」を育成するためには、生徒に「確かな学力」と「豊かな心」を身につけさせ、生徒の自ら学び自ら考え自ら行動する力（自己指導能力）を育てる必要がある。

そこで、本年度は、

ア　確かな学力の定着（昨年度、各教科で実施た「確かな学力育成」の指導の継続）

イ　教育に関する３つの達成目標の具現化（生活規律の確立）

ウ　豊かな心の育成（道徳教育の推進）

という３本の柱を校内研修テーマのための達成項目とし、学力・規律・豊かな心の観点から学校教育目標および校内研修テーマの具現化に迫ることとした。

（２）学校経営方針（経営ビジョン）との関わり

「さわやかなあいさつ、一人一人を大切に絆を深め、誰もが安心して学べる学校」

平成２４年度の学校経営方針に明記された内容の中で、特に以下の項目を重点項目として、その具現化に向けて共通理解を図った。

ア　公教育の使命と責任を自覚して、本校教育目標の実現に努力する。

イ　確かな学力（学ぶ意欲と基礎･基本の定着）と豊かな心（自他を尊重する心情）を育成する教育活動を積極的に推進する。

ウ　学校教育目標の達成に向けた、具体的でわかりやすい努力目標の設定と実践の指針となる具体的取組を示し、学校教育目標の達成に向けて、計画・実践・評価に努める。

エ　道徳の研修会の実施および保護者会等において道徳の授業を公開する。(4月26日実施)

（３）研究の仮説

確かな学力の定着を目指して各教科で規律および基礎・基本を身につけさせ全教育活動において道徳教育の実践に努めることで、「確かな学力」と「豊かな心」を身につけた生徒が育つであろう。

心豊かで自立して生きる生徒を育てるためには、生徒一人ひとりに、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させ、自分の周囲の人々と適切なコミュニケーションを図る能力を育成しなければならない。そこで、校内研修テーマを具現化し仮説を立証するために、全教育活動を通じて生徒一人ひとりを細かく見つめ、学習や生活向上への意欲をもたせ、努力や変容を見逃さずに適切な評価をすることを全教職員の共通理解のもとに行うことが必要であると考えた。

確かな学力の定着を目指して、各教科で規律および基礎・基本を身につけさせ、日々の教育活動において 道徳教育を推進し、心の教育と居場所作りに努めることで、「確かな学力」と「豊かな心」を身につけた生徒が育つであろう。

心豊かで自立して生きる生徒を育てるためには、生徒一人ひとりに、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させ、自分の周囲の人々と適切なコミュニケーションを図る能力を育成しなければならない。そこで、校内研修テーマを具現化し仮説を立証するために、全教育活動を通じて生徒一人ひとりを細かく見つめ、意欲をもたせ、努力変容を見逃さずに適切な評価をすることを全教職員の共通理解のもとに行うことが必要であると考えた。

（４）具体的な取組、実践例

道徳の研究授業（７月１３日）への取組

○指導案検討　６月２５日（月）

単元名　略案

・授業者、道徳主任、研究主任

○指導案検討　６月２８日（木）
　放課後、柱立て、ワークシート等
　・授業者、道徳主任、先行授業者、（３年職員）、研究主任
○先行授業　　７月２日（月）～３日（火）
　・授業者、道徳主任、先行授業者、研究主任、教頭、主幹教諭

第３学年１組　道徳学習指導案

1　主題名　かけがえのない自他の生命を尊重する［内容項目３－（1）］
2　資料名　「ドナーカード」　出典　３年　副読本「自分をのばす」
3　主題設定の理由
（1）ねらいとする価値について
　科学技術の進歩は「生命」の在り方を大きく変えた。医療技術の進歩によってそれまで助かることのなかった生命が助かるようになった。しかしこのことは同時に「生命」に関する倫理的な問題を私たちに突きつけることになった。例えば、「脳死」を人の死として扱うことの是非については、いまだに国民的な合意を得ているとは言い難い。今年の６月にも「６歳未満初の脳死判定」というニュースが大きく報道されていた。現在も様々に論議される「脳死」「臓器移植」の問題を通して「生命」を重く受け止め、他の生命を尊重しようとする態度を育成したい。
（2）資料の活用について
　本資料は臓器移植に関しての率直な考えを述べた新聞の投書を扱ったものである。本時においては脳死や臓器移植の賛否や是非の論議に終始することなく、例えば、「投書の母親はどんな思いから亡くなった幼子に涙を流したのか」、「どんな思いから自分の娘をドナーにはできないのか」ということを考えさせたい。
　そして、臓器移植に賛成する人・反対する人、いずれの意見も、一人一人のたった一つしかない命を大切にしたいと願う気持ちの表れなのだということに気付かせ、自他の生命を尊重しようとする態度を育成したい。
4　本時のねらい
生命の尊さを深く自覚し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育成する。
学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点　☆評価 ●教師グループの協力
導入	・ドナーカードを受け取る。 これは何だろう？ ・脳死、臓器移植についての説明を聞く。 「脳死」は「死」なのか？	・ドナーカード ・臓器提供の意思の有無を予め明らかにするためのもの。 ・心臓が動いているのだから死ではない。 ・生き返る可能性がないなら死。	［資料］ドナーカード ・実物により本時への関心・意欲を高める。 ・主題を考えるための予備知識として、脳死、臓器移植の問題について理解させる。 ・脳死の問題について班で話し合う。 ☆「脳死」の問題をとらえることができたか。
	・資料を読む （教師の範読） (1)高井さんが移植を待ちながら死んだ	・心臓が動いているのに「死」とは認められない。 認めたくない。	［資料］副読本 ［資料］ワークシート ・一面的な見方に陥らないように適切な援助を与える。
展開	子に涙を流しつつも「娘をドナーにはできない」と考えるのはどんな気持ちからだろう。	・たとえ死んだとしても娘の臓器はあげられない。 →大切だから。	・いずれの立場も、生命の大切さを深く認識し、尊重している結果である点に気付かせる。
	(2)　新見さんが自分の臓器移植には肯定的なのに、妻の臓器提供には否定的なのはなぜだろうか。	・自分はどうせ死んでしまうからいいけれど、大切な妻の身体はあげられない。 ・脳死になっても妻が死んだとは認められない。 ・本人が望んでいたとすれば同意する。	●実際に妻(夫)や子をもつ親の立場から教師グループの意見を聞く。 ☆教師と生徒の意見の共通点や相違点を比べながら考えることができたか。 （他者理解・人間理解）
	(3)　家族が「脳死」と判定された時、移植を待ち望んでいる人への移植の同意ができるか？	・絶対に同意できない。 ・待っている人には気の毒だけれど、やはり自分の家族は大切。 ・移植の是非は軽々しく考えてはいけない。命は重い。	・小集団の発表の場として班を活用する。 ・臓器移植の問題について班内で発表しあう。 ●教師グループの意見も聞く ・どちらの判断が正しいという議論にならないように留意する。
	(4)　二人の投書を読み、「命」についてどう考えたのか ○「６歳未満初の脳死判定」のニュースについて知る。		☆二人の筆者の立場と先生グループの意見を通して、命の重みを感じ取ることができたか。 （道徳的価値観の自覚） ［資料］「６歳未満初の脳死判定」のニュース
終末	○一緒に考た先生に感想を聞く。 ○授業の感想をまとめる。	・生死の意味や問題を大人たちと考えられて勉強になった。	●多くの教師に感想を発表してもらう。 ・数人の生徒に発表してもらう

8　授業の形態
（1）班での話し合い
　本授業は、一人一人の考えを伝える時間が確保でき、活発な意見交換ができると思い、「班での話し合い」をする場面を設定した。これは生活班とは別のグループ１０班（３～４人）で構成されている。班内での意見交換により、様々な意見を知ることができるのではないかと考えた。
（2）教師グループの参加
　本授業においては、４名の教師（３学年担当）が「生徒役」で参加した。普段は教える立場の先生が、生徒と同じ立場で授業に参加することで、「先生の意見」ではなく「一人の大人（人間）としての意見」を聞かせる機会とした。

２　研究の成果と課題

本年度は、「確かな学力と豊かな心の育成を目指した指導の工夫」という研修テーマのもと、校内研修に取り組んできた。生徒に「確かな学力」を身につけさせる一つの手段として、「家庭学習の定着」と「生活習慣の確立」に取り組み、向上傾向にある。「埼玉県小中学校学習状況調査」「教育に関する３つの達成目標」の達成率の向上に努め、目標を達成できた項目とできなかった項目があった。

また、「豊かな心」を身につけさせるために「道徳教育の充実」を目標とした。生徒理解に基づく集団と個のかかわりから一人ひとりの責任を明確にして、集団に果たしている自己の役割を自覚し、生徒同士が互いに交流を深め、支え合い、理解し合う集団を育てられたと考え、個人の活動と集団の活動が互いに影響しあい、生徒の自己実現の場を大切にすることができた。これは、１年間のさまざまな取組を通して職員の意識が高まり、研修課題の具現化を目指して気持ちが一つになったことが一番の成果なのではないかと考える。道徳教育のさらなる充実を目指し、研修をさらに発展させていきたい。

（担当　教諭　中村尚寿）

豊かな人間関係を築き、共によりよく生きる生徒の育成
～道徳的実践力と人権感覚の育成を基にして～

秩父市立尾田蒔中学校

1　はじめに

本校では昨年度から「彩の国の道徳」及び「人権感覚育成プログラム」の実践を重点とし、「豊かな人間関係を築く生徒の育成」に取り組んできた。それは、道徳教育の要である道徳の時間の充実と人権感覚を磨く学級活動の活性化を図るものであった。

今年度、埼玉県教育委員会より道徳教育研究推進モデル校の委嘱を受け、「豊かな人間関係を築き、共によりよく生きる生徒の育成～道徳的実践力と人権感覚の育成を基にして～」を研究主題とした。これは、道徳的価値に基づいた生き方の自覚及び道徳的実践力と人権感覚の育成により、今まで以上に自分の考えをしっかりもち、自他の存在を大切にし、人間関係を築き、共によりよく生きていこうとする生徒の育成を目指したものである。

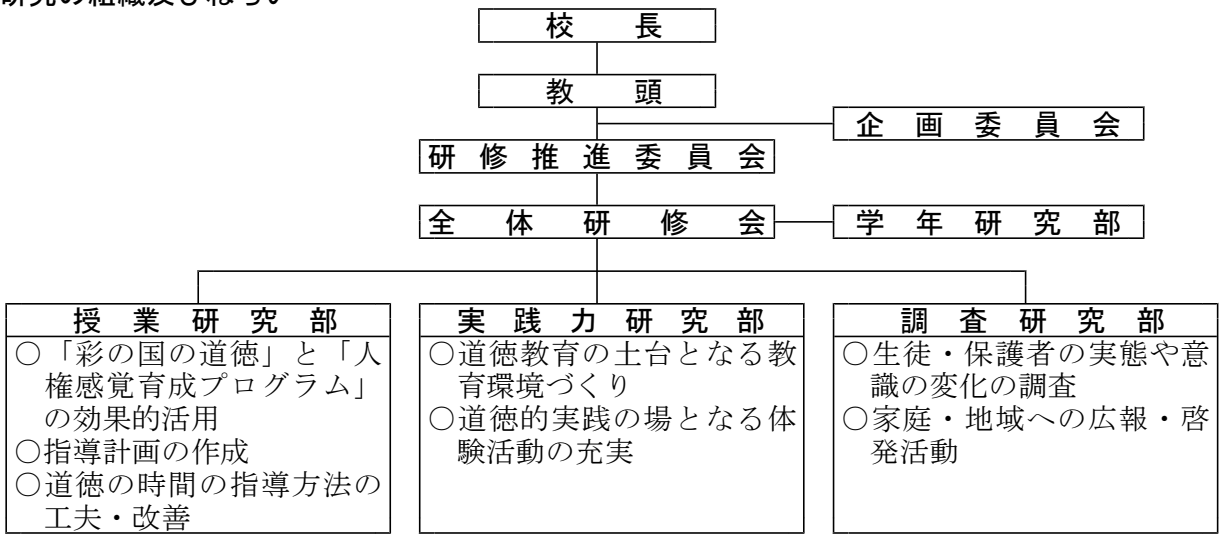
2　研究の仮説

（1）道徳の時間の指導方法の工夫と改善を図り、多様な価値観の中で自己の生き方について考えを深めさせれば、豊かな心の育成が図れるであろう。

（2）学校と家庭が連携し道徳教育を推進することで、相乗効果により教育環境が充実し、指導の効果を高めることができるであろう。

（3）「人権感覚育成プログラム」を活用し人権感覚を磨くことにより、道徳の時間と連動することで道徳的実践力が高まり、共によりよく生きようとする生徒の育成が図られるであろう。

3　研究の組織及びねらい



4　研究の取組

（1）授業研究部

ア　「彩の国の道徳」「人権感覚育成プログラム」の効果的な活用

道徳の年間指導計画に「彩の国の道徳（自分をみつめて）」「彩の国の道徳（心の絆）」「人権感覚育成プログラム」の資料を積極的に取り入れた。「人権感覚育成プログラム」の資料は道徳の他、特別活動、総合的な学習の時間にも連携を図るために取り入れている。

イ　指導案の作成及び指導方法の工夫・改善

学校全体で道徳の授業のレベルアップを図るため、「道徳の時間授業モデル」を作成した。研究部会を定期的に開き、よりよい授業づくりと指導力の向上を目指した。

【道徳の時間の保護者の参加】

ウ　家庭用「彩の国の道徳」の活用による保護者参加型授業の実施

授業参観で全クラス道徳の授業を行い、保護者にも授業に参加していただいた。これにより、家庭との連携を図ることができた。

（2）実践力研究部

ア　「道徳コーナー」（掲示板）の設置及び掲示の工夫

（ア）生徒たちの道徳への関心を高めるために、各学年に「道徳掲示板」を設置し、毎月新しい内容に更新した。掲示した内容は、道徳の授業で使用した詩、「彩の国の道徳」の資料等、また、体験活動を行っている生徒たちの写真等も掲示した。

（イ）各階の生徒用トイレ等に様々な格言や名言を掲示し、常に生徒たちの目に触れさせ、心を耕し、道徳的心情を養い、道徳教育の土台づくりに心がけた。

【道徳コーナー】

イ　体験活動の充実

１学年の川越校外学習、２学年の林間学校・社会体験チャレンジ、３学年の修学旅行などの体験活動を道徳的実践の場と捉え、事前指導及び事後指導を充実させ、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を養うよう努めた。

ウ　「夢と豊かな心をはぐくむ講演会」の実施

西武ライオンズ・アカデミー・コーチの石井丈裕氏を講師としてお迎えし、「夢と豊かな心をはぐくむ講演会」を実施した。この講演会を通して、生徒たちに夢に向かい希望と勇気をもってやり遂げる意欲を高めることができた。

（３）調査研究部

ア　道徳の時間に関する生徒意識調査の実施

道徳の時間に関する生徒意識調査を実施し、調査結果から生徒の実態を知り、魅力ある道徳の時間を創造するため、授業改善を行った。

イ　道徳に関する保護者意識調査の実施

道徳に関する保護者意識調査を実施し、保護者に道徳の時間のねらいや道徳教育の大切さを知ってもらうと共に、保護者の願いを学校が知ることができた。また、学校と家庭が道徳の価値を共有し、同方向で子どもを育てる取組を推進した。

ウ　道徳だよりの発行

「道徳だより」を月１，２回発行し、道徳教育の目的や内容、道徳の時間の取組内容、保護者の道徳に関する意識調査結果などを掲載している。「道徳だより」を親子で読み、家庭での会話の材料の１つとしてもらい、家庭でも子ども達の道徳性を高めてもらうことを目的としている。

（４）その他

生徒会本部役員を中心に「あいさつ運動」「クリーン作戦」「ありがとうの手紙」などを展開し、道徳的実践力を高める取組を推進した。また、生徒会とＰＴＡ共催による資源回収を年３回実施し、親子で地域の方々との交流も図ることができた。

５　研究の成果

○「彩の国の道徳」や「人権感覚育成プログラム」を効果的に活用するために、指導計画の見直しや修正を図ることができた。

○本校独自の「道徳の時間授業モデル」に基づいた授業づくりを行うことにより、学校全体として道徳の時間の授業改善が進み、授業のレベルアップが図られた。

○指導方法の工夫・改善の取組を通して授業づくりの視点が明確になり、全ての教員が自信をもって道徳の授業を行うことができるようになった。

○保護者参加型授業の実施や道徳教育の広報・啓発活動の充実により、保護者の道徳教育への関心が高まり、学校と家庭との連携が推進された。

○計画的な掲示の工夫等、道徳教育の土台となる道徳的環境づくりを推進することができた。

○学校をあげて道徳教育を推進することにより、校内組織を生かした協働による研修体制を確立することができた。

６　今後の課題

●生徒の実態により応じた、指導計画の見直しや指導方法の一層の工夫・改善を行う。

●道徳の時間の担任外教職員の授業への参加や保護者・地域の方々のゲストティーチャーを招いての授業など、授業形態を工夫する。

●「家庭用彩の国の道徳」の利用の仕方をさらに工夫し、学校と家庭との道徳的価値の共有をより一層推進する。

●今年度の成果を基に、これからも学校の教育活動全体及び家庭と連携した道徳教育を継続する。

（担当　主幹教諭　田之上雄二）

確かな学力の育成～意欲を高めるための学習指導の工夫～

秩父市立高篠中学校

1　テーマ設定の経緯

本校は不登校生徒の比率が高い。

さまざまな不登校の要因の中の一つに授業がわからない、できないということがあげられる。その結果として学校がおもしろくなくなり、家に閉じこもってしまうという児童、生徒がとりわけ目立つ。

「わかる授業」「できる授業」を構築し、本来の学校の果たすべき役割である確かな学力を育成し、学校に来る意欲を湧かせることを第一義に職員一同で研鑽してきた。

2　「確かな学力の育成」に向けての取り組み

確かな学力を身につけるための土台となるのはなんといっても「授業」である。わかる授業、できる授業、喜びのある授業を構築していくためにはどうしたらよいか、そして何をしていけばよいかを研究し、実践し続けてきた。

さらに生徒の自治活動を促進させ、校内の規律の徹底に努めた。教師主導ではなく、生徒が問題意識を持ち、主体的に改善していく方策と実践力を高めた。

以下に本校の研修の主たるものとして「確かな学力育成のための取り組み」と「授業規律や生活規律などの共通行動の実践」、そして「小学校との連携の実践」を簡単に紹介する。

（1）　授業力向上研修の実践

「特別支援を要する子どもにとってやさしい（優しい・易しい）」授業は、すべての子どもにとってやさしい（優しい・易しい）授業である。」という理念のもと、特別支援コーディネーターを中心に校内研修に「特別支援教育」を組み込み、ＬＤ（学習障害）・ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害）・ＡＳ（広汎性発達障害）の子を伸ばす指導のポイントを理解し、障害理解と対応スキルを身につける研修を行っている。

特別支援教育の留意点を理解した上ですべての生徒にやさしい授業を展開するための方策として、学期１回の割合で模擬授業研修を行っている。授業をする視点と観察する視点とをはっきり明示し、先生と生徒の役とで模擬授業をとおしてスキルアップを図っている。

スキルアップのための視点の一部を以下にあげる。

ア　一度に出す指示は一つ。

複数の指示を同時にできないという特別支援教育の視点から１回の指示は１つにしぼり、簡潔に述べる。

イ　無駄な言葉を発しない。

長々とした説明でなく、生徒の変容を促す言葉をかける。

ウ　発問･指示が明確で、全員に伝える。

発問、作業指示、活動、評価がスムーズに構成されている。そして大切なことや指示が全員に伝わっているか。

《「理科」の模擬授業の一コマ》

エ　空白時間をつくらない。

手持ちぶさたになる時間をつくらない。早く終えた子にも、作業の遅い子にも配慮があり、次に行うことを的確に指示する。

オ　指導の途中で何度か達成度の確認をする。
　個々の作業の進度を教師がすべて把握している。

カ　リズムとテンポがある。
　心地よいテンポで授業が進んでいく。緩急をつけたテンポで生徒をあきさせず、集中して授業に取り組めるようにする。

（２）授業規律や生活規律などの共通行動の実践

ア　教師主体による実践

「チャイムと同時に始まる授業」「学習用具がそろう授業」「生徒が姿勢を正し、集中して取り組む授業」の３つを一人ひとりの教師が毎時間徹底して行っている。

始業前と始業後に教師が教室にいることで生徒の授業準備は滞りなく進み、落ち着いた静かな態度で授業ができている。その結果として、学習課題や作業への取り組みに改善ががみられ、ゆるやかな勾配ではあるが学力が身についている。さらに、始業前と始業後に教師が教室にいることで、見守ってくれているという生徒の安心感と教師への親しみとが生まれ、良好な人間関係が形成され、学ぶ場にふさわしい環境がつくられている。

イ　生徒主体による実践

生徒自らが学校生活を見直し、中学生としてあるべき姿を考察し、学校の健全な姿を追究できるよう指導・援助している。生徒会本部役員と学級委員会とがタッグを組み、各学級や校内における問題点を定期的にレポートにまとめ、対策を練り、生徒が主体的に活動している。「チャイム席を守る」「かかとのふみつぶしをなくす」「制服をきちんと着る」など、基本的なことを生徒と教師とで実践している。

（３）小学校との連携による実践

ア　中１ギャップの解消

小学校との連携を図り、できる限り児童・生徒一人ひとりに応じた学習指導や生徒指導を心がけ、円滑な中学校生活ができるようにしている。

イ　特別支援を要する児童・生徒の連携

音楽、体育といった小学校への出前授業や小学校との兼務教員を通して児童の実態を把握し、生徒一人ひとりに応じた学力向上のため手段を講じている。

３　まとめ

平成２０年から５年間、一貫して「確かな学力の育成」をテーマに校内研修を継続している。「規律なきところに学力の向上はない」「生徒指導は正常な教室づくりから」「正常な授業実践は健やかな生徒をつくる」という理念のもと、教師、保護者、生徒とが一体となって一つの方向を目指している。その結果、今年度は落ち着いた静かな態度で授業を展開できている。確かな学力の育成のための土台が着実にできている。慢心することなく緊張感と注意力とを持って「わかる授業」「できる授業」を今後とも継続していきたい。

さらに、本校の校内研修の特色である「特別支援教育を視野に入れた学校づくり」を継続させたい。「特別支援教育を視野に入れた学校とは、授業技量向上システムが組み込まれた学校」（山口県長門市立油谷小学校　槇田健氏『特別支援教え方教室』２０１２年６月刊から）である。発達障害の子どもたちへの対応を適切に行う技量と授業技量とを向上させ、よりよい高篠中学校をつくりあげていくことが何よりも大切なことである。

校内研修がそのまま生徒理解や学校づくりに寄与されていることが本校の研修の最大の特色である。

（担当　教諭　阿保明夫）

「個に応じたわかりやすい授業の創造」
～特別支援教育の視点に立った授業改善と学習環境の整備を通して～

秩父市立大田中学校

1　研究主題設定の理由

将来社会に出た時に、自分の考えを持ちたくましく生きていくために、各教科での学習に意欲的に取り組ませ基礎・基本を身に付けさせたい。しかし、生徒一人一人を見ると様様な課題を抱えている。

そこで、生徒一人一人に目を向け、学習に取り組む姿勢の指導や学習環境の整備に取り組むこととし、特別支援教育の視点に立った授業改善を行うこととした。

本年度の研究主題を「個に応じたわかりやすい授業の創造」とし、研究を進めるにあたっては授業研究会を柱とし、わかりやすい授業を展開するために、発問や指示の仕方、板書の工夫等について研究していきたい。

また、ワークショップ型の研究協議を取り入れ、より深まりのある充実した研修になるよう努めていきたい。

2　研修内容・方法

授業研究会では、年２回の要請訪問においてワークショップ型の研究協議を取り入れた校内研修を実施し、その他の授業研究会では「ここ見てシート」を活用し、研究主題に沿ったポイントで協議の内容を絞って研究を深める。

また、資質向上研修では、特別支援教育の視点に立った事例研修や方策等、専門的な立場の指導者による研修を実施する。

3　研究主題と教科の関わり

（１）各教科の授業改善・授業の工夫等の着眼点

教科	個に応じた授業・授業改善・学習環境の整備等
国語	・到達点やそのプロセスを明確にし見通しを持たせる。 ・発問の際に、机間指導や生徒の反応を通して、状況に応じて評価 B や評価 C の生徒へのヒントの与え方を工夫し、さらに評価 A の表現力が豊かになるよう声がけを行う。 ・「考える」「書く」などの学習活動の際、タイマーを活用し時間の見通しを持たせる。
社会	・小単元の学習課題の明確化と学習意欲を喚起する導入を工夫する。 ・作業学習を増やし、活動することにより、生徒の理解が深まる授業展開を考え、実施する。 ・１時間の授業のまとめや振り返りを大切にし、学習内容の定着を図る。
数学	・ICT を活用して、言葉だけでなく視覚に訴えた授業づくりを推進する。
理科	・わかりやすい言葉を用いた説明とスライドなどの視覚から得られる情報を併用して、わかりやすい授業を展開する。
英語	・目標を掲示し、それに対しての振り返りや自己評価の時間を設定することで、生徒の理解度を把握する。
音楽	・授業の目標の提示を行う。 ・ワークシート、教科書への書き込みをさせる。 ・効果的な板書をする。 ・毎時間の自己評価を行う。 ・器楽学習での個人別指導を充実する。
美術	・視覚的な参考資料からイメージをつかませる。 ・対話によるテーマの理解と実践を図る。 ・鑑賞において、ワークシートを活用した授業を行う。
保健体育	・技能分析による課題やポイントを理解させる資料（掲示）を活用する。 ・評価Ｃの生徒の課題確認と個別指導を行う。 ・ペアやグループでの学習の取組（継続取組）を実施する。 ・学習カードの工夫と視聴覚機器を使った授業を展開する。
技術家庭	・教科書だけでなく、デジタル教材を利用した授業を行う。（技術） ・ワークシートの工夫と、実演を取り入れた説明や視覚的な資料を使用した授業を行う。（家庭） ・実習において、グループでの学習を取り入れる。（家庭）

（２）「ここ見てシート」を活用した校内授業研究会

英語科の授業研究会

昨年度より、校内の授業研究会では「ここ見てシート」を活用して研修を行っている。本年度の研究主題から、年度当初に各教科の着眼点を明らかにし、工夫点等のポイントを同じ教科でなくてもわかりやすく、内容を深めたり参考にしたりする研修を行った。英語科の授業ではプロジェクターを使い、視覚からも理解できるような工夫が見られた（左の写真）。また、昨年度から研究してきた学び合いも重視し、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れている。そして、要請訪問では、ワークショップ型の研修方法を取り入れ、小グループで、指導案を拡大したものを用いながら、授業の工夫点や課題を深く掘り下げて話し合うことができた。

４　校内研修計画

（１）研修計画作成にあたって

研修計画は、年間行事計画との調和を図り、期日、目的、内容、職員の役割分担を明確にし、円滑な運営のできる計画とする。立案にあたっては、全職員が主体的に参加するよう工夫する。

（２）課題研修：授業研究会

１回：5/21（月）保健・数学、２回：6/18（月）数学・第１回要請訪問、３回：7/9（月）支援担当学校訪問、４回：9/3（月）外国語・理科、５回：11/26（月）社会・第２回要請訪問、６回：12/10（月）保健体育・国語、７回：1/14（月）特別支援学級・音楽

（３）資質向上研修会

１回：4/23（月）本年度の研修の進め方、２回：8/6（月）教育課程研究協議会報告・教育相談研修会「みんながやる気になる、さりげない支援」、３回：8/21（火）小中合同研修会、４回：10/29（月）人権教育研修会ビデオ視聴「声を聞かせて」、５回：2/18（月）１年間の成果と考察、６回：3/4（月）次年度の計画立案

５　本年度のまとめと来年度に向けて

（１）成果

・指導案に板書計画を入れることで、わかりやすい板書を各教科で工夫することができた。また、授業のめあてや流れをプリントで用意し黒板に掲示することで、生徒が何を学ぶのか、どんな活動をするのか見通しを持って授業参加することができた。
・視聴覚機器を使うことにより、内容や資料を明確に提示し、生徒の理解を深めることができた。
・他教科の授業参観や特別支援教育研修を行い、授業の工夫点等を理解することで、授業改善が図られた。

（２）課題

・個に応じた指導を充実させるために、より深く教材研究をして授業の準備をする必要がある。
・学習に対する意欲を高める工夫が必要である。
・各教科の学び方の指導を徹底する。

（３）本年度のまとめと来年度に向けて

本年度から特別支援教育の視点に立った授業改善と学習環境の整備を通して「個に応じたわかりやすい授業の創造」をめざした校内研修に取り組んできた。その結果、障がいのある生徒だけでなく全ての生徒に目を向けた授業を展開することが大切であることがわかった。また、発問や指示のあり方、板書の工夫、学習課題の提示、学習の見通しを持たせる工夫など、当たり前のことを当たり前に実践することの重要性を再認識することができた。

研修を進めるに当たっては、ワークショップ型の話し合いなども取り入れながら、授業改善・工夫点等について、全職員で共通理解をしながら研究を深めることができた。来年度もさらにわかりやすい授業の創造をめざして研修を継続し、深化させていきたい。

（担当　教諭　熊崎英雄）

『生きがい・居がい、
頼りがい、やりがいのある
生き生きとした学校づくり』

秩父市立影森中学校

１　研究の主題について

学校の課題解決のためにつぎのような目標を設定した。

・授業規律の確立や「道徳の時間」及び生徒活動の充実を通して生徒と教師、生徒同士の信頼関係を築く。
・授業で考える時間、発表する工夫をして言語活動を充実させ、子どもたちの聞く力、考えをまとめ発表する力を高める。
・意欲的に学習に取り組む態度を育成し、家庭学習を向上させるために自己チェック能力を高める。

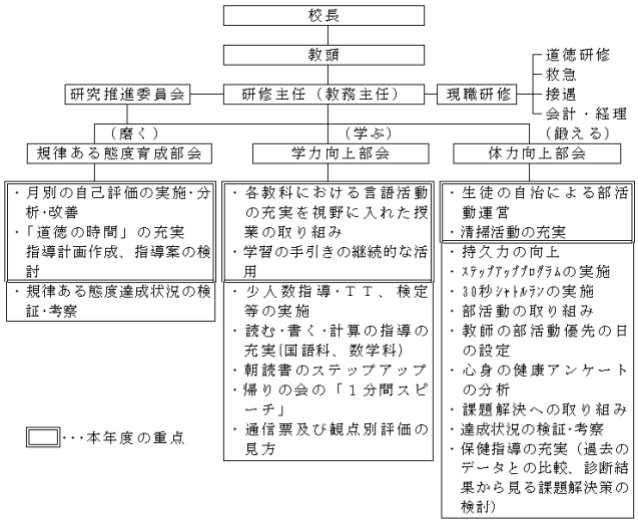
更に具体的な方策としてつぎの３点をあげた。

○「言語活動の充実」への取組。埼玉県教育委員会の資料をもとに、各教科における言語活動（考えをまとめ発表する力）の充実に取り組む。

○「教育に関する３つの達成目標」への自己チェック能力の向上を基本とした学力向上のための指導方法の工夫に取り組む。

○「私の授業を見に来てください」への取組。授業規律、本時のねらい、発表のさせ方、書く力、声の大きさを指導の重点とし教師の授業力の向上に取り組む。

【表１　研究組織】



【表２　年間研修計画】

月/日(曜)	時間	形　態	内　容 研　究　（☆現職研修）
４／２５(水)	15:00～16:30	全体会 専門部会	・平成２４年度研修計画の検討 ・専門部所属決定と研修内容検討
５／１４(月)	15:30～16:30	全体会 教科会	・年間研修計画の提示 ・学力向上計画の提示 ・各教科ごとの研修課題の決定
６／１１(月)	15:30～16:30	全体会 専門部会	・各部会の進捗状況と取り組み確認
６／２９(金)	15:30～16:30	全体会	☆薬物乱用防止教室（期末テスト後　５校時）
７／　２(金)	15:20～16:30	全体会	☆心肺蘇生法講習会
７／　４(金)	8:30～16:30	全体研修	☆秩父市教育委員会、北部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問
７／１８(水)		専門部会	・ふれあい講演会
８／２４(金)	9:00～12:00	全体会	☆生徒指導研修会・人権研修会報告 ・危機管理研修（教頭担当）
９／　３(月)	15:20～16:50	全体会 専門部会	・取り組み状況の中間発表 ・道徳Ⅰ
１０／１(月) 要請訪問①	13:40～16:30	全体研修	・学級活動 ・研究協議会
１０／３０(月)	15:20～16:30	全体会	・学級活動について ・道徳Ⅱ
１１／２６(月)	15:20～16:30	全体会 専門部会	・人権教室 ・各部会の進捗状況と取り組み確認
１／２３(水) 要請訪問②	13:40～16:50	全体会	・学級活動 ・研究協議会
2/18(月)	15:20～16:30	全体会	・年間研修の反省 ・今年度の研究のまとめ ☆次年度の教育課程検討研修
３／　４(月)	15:20～16:30	全体会	・今年度の研究のまとめ ☆次年度の教育課程検討研修

２　本年度の取組について

研究は３つの部会でつぎのような取組を重点としてすすめた。

（１）規律ある態度育成部会

学習規律を確立するために、教師は始業時刻前に教室に入室する。授業前準備、あいさつ、話を聞く姿勢、返事・発表の声大きさ等、授業における基本の徹底を図る取り組みをおこなった。また、「今月を振り返って」という生徒の自己評価を毎月末に行い、その結果を集計し、翌月の活動に活かした。

（２）学力向上部会

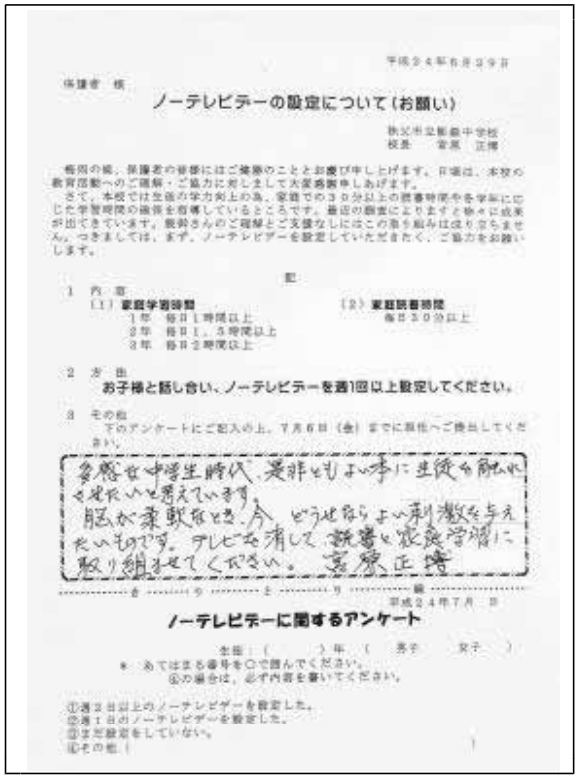
わかる授業展開とするために全教師が必ず「本時のねらい」を授業のはじめに提示する。また、言語活動の充実を図るために授業でグループ討議で意見交換したり、自分の考えをまと

めたり、発表の機会を増やす取組などをした。

「ノーテレビデー」を毎週水曜日に設定し、家庭学習・家庭読書時間を確保できるようにし家庭学習や読書習慣の一層の定着を図った。保護者に周知するために校長の直筆の文章を入れた「設定のお願い」を保護者に配布した。更に、読書については図書委員会で「先生方のおすすめの本」を紹介したり、「読書マラソン」で読んだページ数で表彰する取組を行った。

夏休みに「各教科で苦手意識をもった生徒」への補習授業を実施した。

【図1　ノーテレビデーの設定お願い通知】



平成24年6月29日

保護者　様

ノーテレビデーの設定について（お願い）

秋父市立秩父中学校
校長　宮原　正博

梅雨の候、保護者の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、本校の教育活動へのご理解・ご協力に対しまして大変感謝申しあげます。

さて、本校では生徒の学力向上のあ、家庭での３０分以上の読書時間や各学年に応じた学習時間の確保を奨励しているところです。最近の調査によりますと徐々に成果が出てきています。教師さんのご理解とご支援なしにはこの取り組みは成り立ちません。つきましては、まず、ノーテレビデーを設定していただきたく、ご協力をお願いします。

記

１　内容
（１）家庭学習時間
１年　毎日１時間以上
２年　毎日１．５時間以上
３年　毎日２時間以上
（２）家庭読書時間
毎日３０分以上

２　方法
お子様と話し合い、ノーテレビデーを週1回以上設定してください。

３　その他
下のアンケートにご記入の上、７月６日（金）までに担任へご提出してください。

貴殿は中学生時代、是非ともよい事に生徒を導いてあげたいと考えています。
脳が柔軟なとき、今、どうせならよい刺激を与えたいものです。テレビを消して読書と家庭学習に取り組ませてください。宮原正博

――
――

平成24年7月　日

ノーテレビデーに関するアンケート

生徒：（　　）年（　男子　　女子　）

＊　あてはまる番号を○で囲んでください。
⑥の場合は、必ず内容を書いてください。

①週３日以上のノーテレビデーを設定した。
②週１日のノーテレビデーを設定した。
③まだ設定をしていない。
④その他（　　）

（３）体力向上部会

清掃活動を充実させるために、各クラスで担任から清掃長を指導し清掃分担表を効果的に活用し、清掃長から指示をだせるようし、生徒同士の見届け合いができるよう指導した。また、清掃班の分担期間を１週間から１ヶ月などの長期にすることで指導を継続的にできるようにした。

生徒の自治による部活動運営をめざし、部長会を活発にし、生徒会本部役員との連携して各部の部長が下校指導を行なった。各部の部長がリーダーの自覚を持つことで、時間を守り集中した部活動が行われるよう指導した。

３　成果と課題

（１）始業、終業などの挨拶、返事・発表の声なども向上し、落ち着いた環境で学習活動をおこなっている。また、職員室への入室の際の用件をはっきり言える生徒が多くなってきている。

（２）「読書マラソン」では、１１月から１２月の２０日間で１日に３０分以上読書する取り組みを実施し、５００ページ以上読めた生徒が全校の５０％になり、最高は４９７７ページだった。あまり読んでいない生徒への個別指導が今後の課題である。

また、家庭学習の取組では、生徒会本部・学級委員会が調べた各学年の平均家庭学習時間調査では、１２月と１月では、１年４４分→４８分、２年４７分→５６分、３年７５分→９８分と声かけを行うことで少しづつではあるが増加している。しかし、目標としている時間までにはまだまだ、少ない状況である。家庭学習の習慣についても家庭と協力して継続して伸ばすことと個別指導が課題である。

（３）部活動の部長会は月に１回の程度開催し各部の課題を共有する時間を設けた。その結果、各部の活動に活かされ改善の様子が見られた。特に、下校指導では部長が中心となり時間を守る意識が定着しつつある。

清掃活動では清掃長を中心として主体的・自主的に活動できるようになってきたが、教師の指示・指導が不可欠なケースも依然としてある。取組意欲を向上させ、自ら改善できるように継続して改善に取り組まなければならない。

（４）運動会では、実行委員会を中心に生徒が主体的に活動でき、充実したものになった。生徒も自分達でつくりあげた運動会として、自信をもつことができた。しかし、文化祭ではその体験を生かし切れず、生徒自らが気づき、企画、行動する面で課題が残った。

要請訪問では「特別活動」について、３学年で「話し合い活動」、２学年で「性教育」を実施した。特に、性教育では「男女の望ましい人間関係の在り方について考えよう」として、担任と養護教諭がＴＴでおこなう授業を公開し有意義な研修とすることができた。

（担当　教諭　関根　稔）

「基礎学力・学習意欲の向上を目指し、
互いに高め合う生徒の育成」

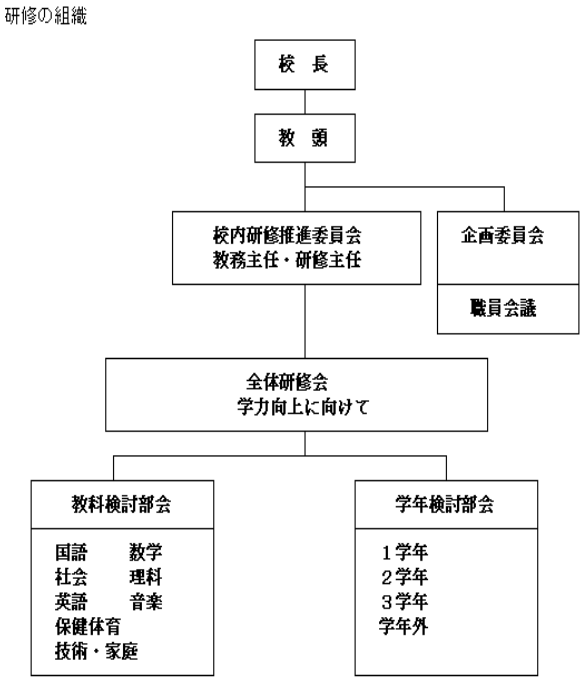
秩父市立吉田中学校

１　研究テーマについて

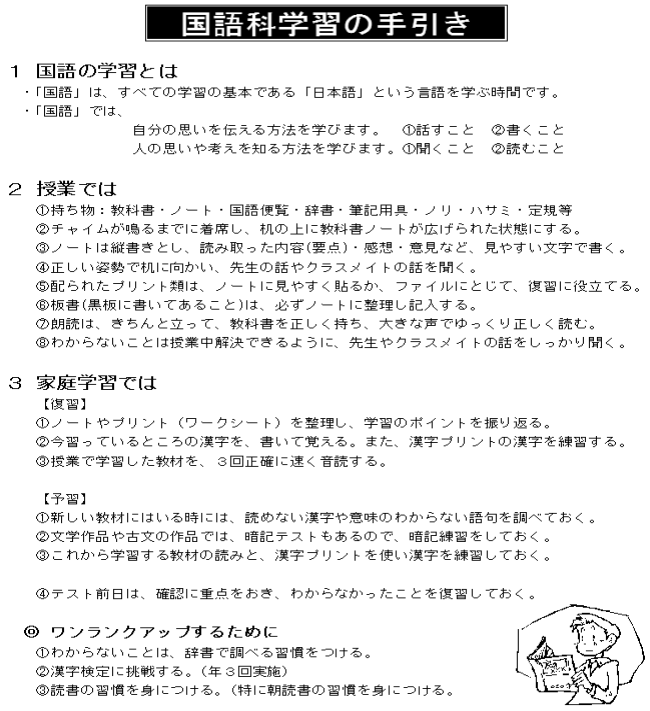
本校は穏やかで明るい生徒が多い反面、他校からの刺激が少ないため、学習意欲を持ち続けることや地道に勉学に取り組むことに困難さを感じている生徒も多数見受けられる。また、各教科の学習を深化させるための基礎的な学力も十分ではなく、基礎学力の向上を望む声も多く聞かれる。そこで、学校教育目標の「学び、鍛え、高め合う生徒の育成」を鑑み、今年度の研究テーマを「基礎学力・学習意欲の向上を目指し、互いに高め合う生徒の育成」と設定した。

生徒の基礎学力と学習意欲の向上を目指すため、「学習の手引き」を作成し、学習のしかたや各教科のポイントを示す。また、教師の授業力を向上させるために、全教師が授業を公開し、相互に参観する。このことにより指導法の改善や生徒との人間関係づくりを推進し、基礎学力の向上に取り組む。

【研究組織】



【学習の手引きの例】



国語科学習の手引き

１　国語の学習とは
・「国語」は、すべての学習の基本である「日本語」という言語を学ぶ時間です。
・「国語」では、
自分の思いを伝える方法を学びます。　①話すこと　②書くこと
人の思いや考えを知る方法を学びます。①聞くこと　②読むこと

２　授業では
①持ち物：教科書・ノート・国語便覧・辞書・筆記用具・ノリ・ハサミ・定規等
②チャイムが鳴るまでに着席し、机の上に教科書ノートが広げられた状態にする。
③ノートは縦書きとし、読み取った内容(要点)・感想・意見など、見やすい文字で書く。
④正しい姿勢で机に向かい、先生の話やクラスメイトの話を聞く。
⑤配られたプリント類は、ノートに見やすく貼るか、ファイルにとじて、復習に役立てる。
⑥板書(黒板に書いてあること)は、必ずノートに整理し記入する。
⑦朗読は、きちんと立って、教科書を正しく持ち、大きな声でゆっくり正しく読む。
⑧わからないことは授業中解決できるように、先生やクラスメイトの話をしっかり聞く。

３　家庭学習では
【復習】
①ノートやプリント（ワークシート）を整理し、学習のポイントを振り返る。
②今習っているところの漢字を、書いて覚える。また、漢字プリントの漢字を練習する。
③授業で学習した教材を、３回正確に速く音読する。

【予習】
①新しい教材にはいる時には、読めない漢字や意味のわからない語句を調べておく。
②文学作品や古文の作品では、暗記テストもあるので、暗記練習をしておく。
③これから学習する教材の読みと、漢字プリントを使い漢字を練習しておく。

④テスト前日は、確認に重点をおき、わからなかったことを復習しておく。

◎ ワンランクアップするために
①わからないことは、辞書で調べる習慣をつける。
②漢字検定に挑戦する。（年３回実施）
③読書の習慣を身につける。（特に朝読書の習慣を身につける。

２　具体的な取組

（１）「学習の手引き」の作成及び生活アンケートの実施

生徒の基礎学力・学習意欲の向上を目指すため「学習の手引き」を各教科で作成し、活用することにより授業や家庭学習の充実を目指す。生徒の家庭学習の状況や授業の理解度を測るため、生徒アンケートを毎学期実施した。また、本校のSST、単元テストなどを有効活用し、基礎学力向上を目指した。

（２）全教師による授業公開

授業力の向上を目指す観点から全教師による授業公開を実施し、授業を相互参観した。同一教科の教師は必ず参加し、参観者は評価メモを授業者に提出した。また、授業の情報交換会を定期的に開催して、授業の充実を図った。若い教師は授業参観を望んでおり、積極的に経験豊富なベテラン教師の授業を参観することにより指導法の工夫・改善へのきっかけとした。

【授業の公開の様子と実施計画】

月	日	校時	クラス	教 科	内　　容
６月 6/25～29 公開週間	25(月)	5	２－２	数学	「連立方程式」 **要請訪問①**
７月					
９月	21(金)	4	１－２	技術	「材料と加工」
	24(月)	1	１－２	英語	「lesson４」
		3	３－１	〃	「lesson４」
10月	1(月)	3	１－１	国語	「漢字の広場」
11月	9(金)	5	１－１	保体	「陸上競技　ハードル走」 **体育授業研究会**
	13(火)	2	３－１	保健	「医薬品の利用」
11/5～9 公開週間	20(火)	5	２－１	国語	「文章名人　感謝の気持ちを形にするには」 **要請訪問②**
	21(水)	5	２－１	社会	「日清戦争」
	22(木)	2	１－２	数学	「平面図形」
12月	10(月)	4	２－１	英語	「lesson７」
１月	15(火)	4	２－２	道徳	「命のタスキ」
	16(水)	3	１－１	理科	「大地の変化」
1/15～18	17(木)	2	３－１	社会	「国会について」
	18(金)	1	２－２	理科	「天気とその変化」
公開週間	18(金)	2	３－１	音楽	「合唱」
	29(火)	5	１－２	道徳	「命のタスキ」**(秩教研道徳部会研究授業)**

（３）小・中学校間の連携

小・中学校間で授業の公開、情報交換会を行った。小・中学校の要請訪問にそれぞれの教師が授業参観し、研究協議に参加した。秩父市の学力向上推進協議会などを始め、小・中学校の情報交換会を５回行った。

また、吉田中学校区の保育園、幼稚園、小・中学校の保護者と教職員を対象とした教育講演会を実施した。講師は埼玉県教育弘済会会長の倉橋政道氏で、「賢い子を育てるために」という演題でした。保育園、幼稚園をはじめ小・中学校の教職員と保護者の交流を図った。

【教育講演会の様子】

３　成果と課題

（１）教師が相互参観することで授業研究が活発になり授業が改善されつつある。また、教科会や部会を自発的に行う雰囲気ができた。このことがわかる授業の実践につながり、教師の資質向上につながることとなった。

（２）生活アンケートで生徒の実態を把握し、学習状況調査や教育に関する３つの達成目標の分析を進めることで授業の課題を見つけ、家庭学習等の指導の充実につなげることができた。分析の結果を PDCA サイクルの検証により生徒にフィードバックすることで、今後も調査・分析・実践を繰り返すことが肝要である。

（３）小・中学校間の連携については交流の体制が確立できたので、今後は吉田地区の子どもを系統立てて育てるための支援体制を整備し、研修内容を充実していきたい。

（担当　教諭　大沼修一）

思考力を高め表現できる生徒の育成
～個に応じたきめ細やかな指導の充実を通して～

秩父市立大滝中学校

1　研究主題設定の理由

本校は、埼玉県唯一の複式学級をもつへき地中学校である。へき地教育研究主題「ふるさとの学びを生かし新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」を目指し、へき地・小規模学校の特色を生かした教育活動を推進している。特に伝統的な郷土芸能体験活動（神楽）や異年齢集団による体験活動の充実を図り豊かな心を育んでいる。また、教育活動全体を通して言語活動の充実を図りながら思考力 ・判断力・表現力を育成していくことを目指している。

昨年度末、本校教職員による本校のＳＷＯＴ分析を行い、大滝中学校の外部環境と内部環境における強みと弱みを洗い出してみた。それによると、少人数できめ細やかな指導や個別指導ができるといった良さが挙げられた。そこで、以下のように、その強みを更に伸ばす視点が出された。

○　伸びる子を伸ばす指導の工夫、改善

○　個に応じた更なる指導の徹底（習熟度授業の要素）

一方、弱みについては、競争心、ライバル意識、切磋琢磨がなく、恵まれた環境で他人に頼ってしまいがちである等の課題が挙げられた。

本校生徒が抱える課題解決のために、「課題を意識し、個に応じた指導を徹底しながら、伸びる子を伸ばす指導の工夫、改善」が大切であると考えた。そこで、言語活動の充実を図りながら、以下の取組を大きな柱として研究主題を設定した。

①　知る・考える・発表する言語活動の充実を通して、思考力を高める授業の取組

②　行事等、教育活動全体を通して思考力を高める２つのベクトルの取組

2　具体的な取組

（1）知る・考える・発表する言語活動の充実を通して、思考力を高める授業の取組

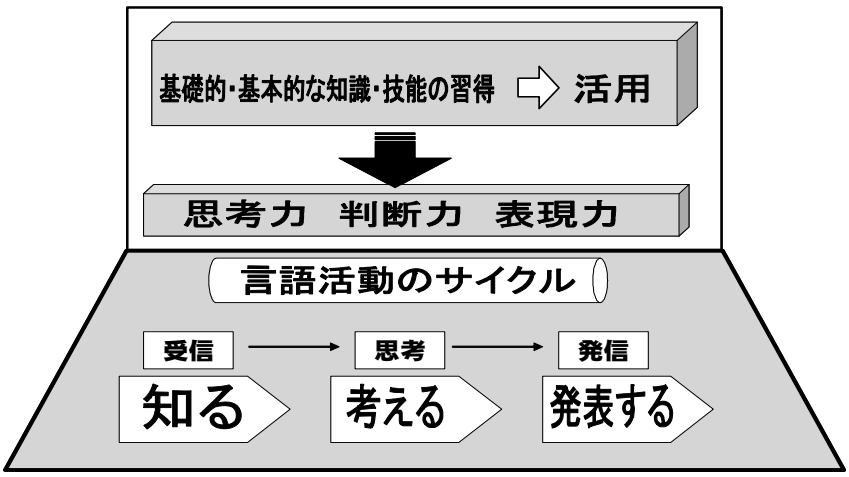
以下の３つの取組を実施した。

取組１　　知る・考える・発表することを意識した公開授業の実践

取組２　　知る・考える・発表することを通して思考力を高める要請訪問の授業実践

取組３　　支援担当学校訪問における知る・考える・発表する活動の授業実践

これらの取組を進める中で、言語活動を通して生徒に考えさせる授業を組み立てることが大事なのではないかという考えに至った。さらに、思考力は、判断力・表現力とも切り離すことができないことも明らかとなった。結論として、**思考力向上とは「知る」・「考える」・「発表する」言語活動を１つのサイクルとした授業実践により可能になる**という新しい視点に至った。右はその視点を図式化したものである。

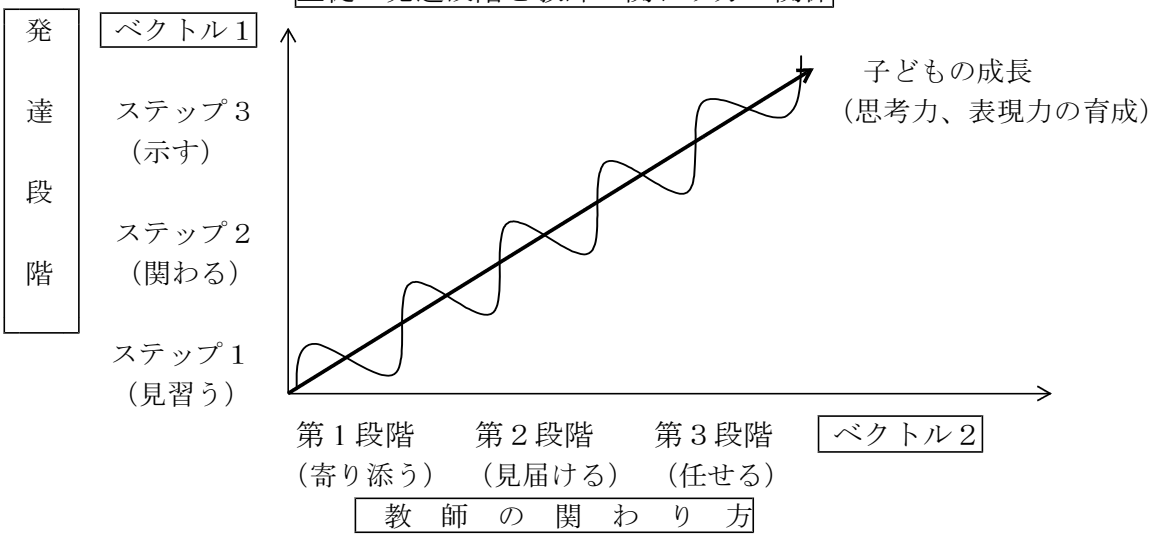


（2）行事等、教育活動全体を通して思考力を高める２つのベクトルの取組

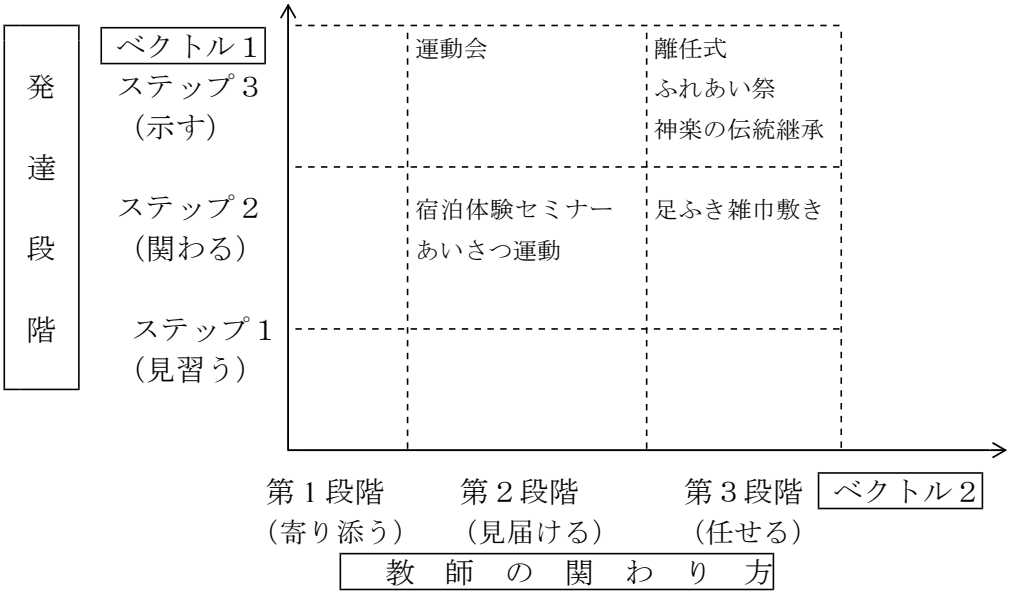
思考力を向上させるためには、全教育活動を通して取り組む必要がある。そこで、生徒の発達段階をステップ１（見習う）、ステップ２（関わる）、ステップ３（示す）に分けて、

ベクトル１ に示してみた。一方、指導する教師の関わり方を、第１段階（寄り添う）、第２段階（見届ける）、第３段階（任せる）に分け、ベクトル２に示してみた。生徒の発達段階ステップ３、教師の関わり第３段階を理想とし、思考力を高める場面を意図的に設定している。

生徒の発達段階と教師の関わり方の関係



本校の行事等における成果



３　まとめ

（１）　知る・考える・発表する言語活動の充実を通して、思考力を高める授業の取組

○ 成果

・どの教科も思考力を高めることを意識して授業を行い、できる生徒も生き生きとして授業に参加することができた。

○ 課題

・今後は、思考力を高める手立てを更に深める研修に取り組む必要がある。

（２）　行事等、教育活動全体を通して思考力を高める２つのベクトルについて

○ 成果

・行事等で生徒の自主性が育ち、生徒に任せられる活動が増えてきている。

○ 課題

・今後は生徒の発達段階や教師の関わり方を考慮した活動を意図的に計画すべきである。

（担当　教諭　江田幸一）

「学力向上と豊かな心の育成
～種をまき、水をやり、しっかり見届ける教育～」

秩父市立荒川中学校

1　研究の概要

本校では、上記研究主題のもと校内研修を進めている。これは、荒川地区小・中三校共通のものであり、小・中のギャップを取り除くと共に同一歩調で研究を進める意図をもっている。また、副題に「学校教育目標　実践への考え方」を取り入れ、本研究の道筋とした。今年度は昨年度まで行ってきた「言語活動」「小・中連携」等の取組を継続して、学力向上を図りつつ、特に「学習習慣の確立」に向けた取組に力を入れた。また、個人研究を主体に研修を進めることによって、新学習指導要領をふまえた授業改善を目指した。

2　各部会の研究内容

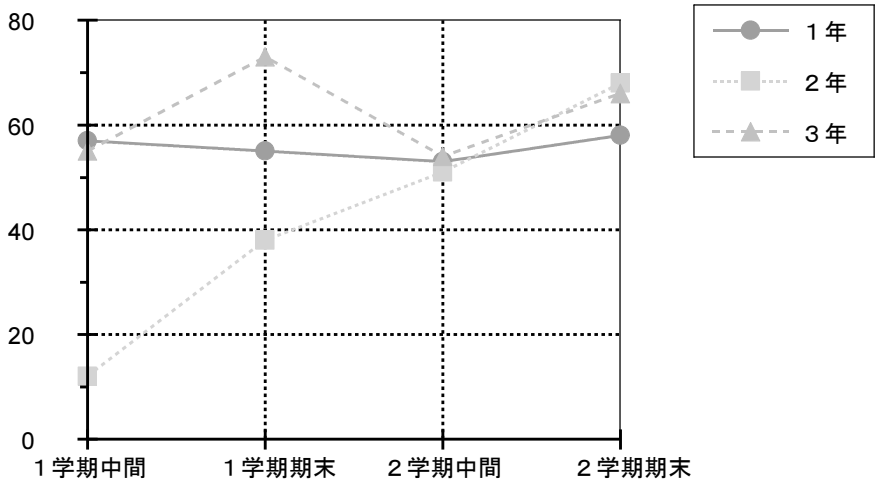
（１）「宿題チェックボード」

現在出されている宿題が一目でわかるような掲示板を設置することで、宿題の量を意識的にコントロールして与え、継続的に家庭学習の習慣を身に付けさせる。

（２）「学力向上年間計画・具体計画」

実力テストを活用し、短期間のＰＤＣＡサイクルを３回繰り返すことによって、テストの対策や復習を行い、計画的に学力の向上を図る。また、各教科毎に学力向上の手立てを具体的に示すことによって、自学を推奨する。まず、県学習状況調査や全国学力・学習状況調査等が行われる前にキャンペーンを展開し、テスト対策を呼びかけると共に、過去問題を使って対策を練る。テスト後、調査結果をもとに結果分析をし、これまでの取組の成果や課題を見出す。そして、テストを返却する際、間違い直しをして復習すると共に、課題解決のための具体的方策を立て、今後の授業に生かす。このように、実力テストを単発で終わらせることなく、次の学習へと生かしている。さらに、各教科において「〇〇コンテスト」「憲法暗唱」「予告問題」等の学力向上に向けた具体的な手立てを講じている。

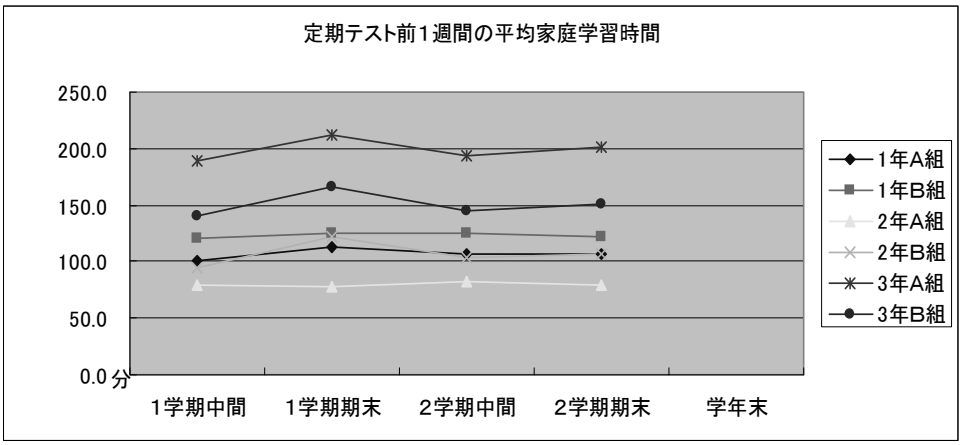
（３）「Ara-chu ゼミ」



放課後や長期休業中、自ら学ぶ機会を設け、学ぶ楽しさや達成感を味わわせることによって学習意欲を高めると共に、一人一人に目を向けたきめ細かな指導をおこない、学習習慣を確立させる。主に定期テスト前の部活動中止期間を使って、全教科・全学年のゼミを開講している。はじめに各クラスで申込書を配布し、希望者を募る。はじめは希望者だけであったが、夏休みや二学期のゼミでは補習が必要だと思われる生徒にも声をかけることによって、参加者も増え、より充実した取組となってきている。参加した生徒は、進んで質問したり、学び合ったりして、わかる喜びを感じつつ楽しそうに学んでいる姿が見られる。

（4）「がんばろうキャンペーン」

クラス毎に一人当たりの平均家庭学習時間を算出することで、各生徒が自分の学習状況を確認し、進路実現に必要な目に見える努力目標の一つとする。毎回の定期テスト前一週間、実施している。まず、班長が朝の会までに班員の学習時間を集計票に記入する。次に、学級委員が学級の平均学習時間を計算し、昇降口に掲示してある一覧表に記入する。そして、昼の放送で集計結果を読み上げる。学習時間が最も多いクラスの数字が読み上げられると各クラスから歓声が上がるなど、徐々に関心が高まってきている。これまで、本校の生徒は家庭学習の習慣に課題が見られたが、３年生は１日平均３時間以上家庭学習を行うなど、この取組を機に改善されつつある。



（5）「家庭学習ガイド」

家庭学習をどのように進めればよいのかわからないといった生徒のつまずきを解消するための手立てとして、年度当初、使い方を説明しながら配布する。家庭学習ノートのはじめのページに貼って活用させる。

（6）読書活動の推進

「図書の貸出日を週６回に拡大」「読書量の目標を決めた読書週間の設定」「図書室に置きたい本の生徒アンケート」「友達に読んでもらいたい本の推薦」等

（7）小・中連携の取組

荒川小・中３校共通資料「学習３つの約束」「家庭教育の重点ポイント」

「出前授業」「授業見学」「要請訪問の相互参観」「夏の三校合同研修会」「小・中連絡会」

（8）言語活動の取組

「言語能力表」「発表の達人になろう！」「荒中職員『言語活動』共通理解カード」等

（9）「秩父市小・中学校共通の目標　～学力向上のための基礎・基本～」の取組

１週間に一項目ずつ重点化して取り組むと共に、強化月間の初日、中間、最終日の３回アンケートをとり、達成率をグラフで表示しフィードバックして定着を図る。

３　研究の成果と課題

「Ara-chu ゼミ」「がんばろうキャンペーン」はかなり定着してきた。この期間は、生徒・職員とも意識が高まり、意欲的に取り組んでいる。しかし、普段の生活の中での家庭学習がまだ身に付いていない生徒もいるため、個々への支援が必要である。今年度行った個人研究は、新学習指導要領の全面実施に伴い、授業改善等に役立っている。今年度は、図書室環境を大きく変えると共に、読書週間等を実施することによって、読書活動の推進を図った。今後も学習習慣を確立させる取組を継続し、学力向上を図っていきたい。

（担当　教諭　佐藤典靖）

Ⅳ　初任者としての１年

初任者としての１年を振り返って

秩父市立花の木小学校　教諭　増　雅代

１　はじめに

花の木小学校へ着任し、早くも一年が過ぎようとしています。臨時的任用教員や民間企業での仕事の経験を経て、この４月新採用となりました。今までの経験を生かしながら、新たな気持ちで一つ一つ学んでいこうと決意したのを思い出します。この一年間、多くの先生方にお世話になり、支えて頂きながら、様々なことを学ぶことができました。私にとって、とても充実した一年になりました。

２　教科指導

小学校ではすべての教科を指導しなければなりません。やり甲斐もある一方、担任の責任は重く、教えることの難しさも感じました。学校研修では、先生方の示範授業を見させて頂きました。４５分間の中で子どもたちの興味・関心を引きつけるための工夫や発問の仕方、教材教具の効果的な使い方などとても勉強になりました。研修の中で学んだことを実際の授業に取り入れ、授業力が向上するように努めましたがなかなかうまくいかず悩むことも多かったです。

たった１時間の授業でも、子どもたちにとっては一生に一度の１時間です。その言葉を胸に毎日の授業に向けて、教材研究に力を入れ、「わかる楽しさ」を味わえる授業を目指し、周囲の先生方からご指導頂きながら今後も努力していきたいです。

３　学級経営

「毎日子どもたちが笑顔で過ごせるクラス」を目指し、取り組んでいこうと考えました。まず、担任として、一人一人の子どもをよく知ることから始めました。子どもたちの日記を通して、家での様子や興味のあること、友達関係など知ることが出来ました。休み時間は、一緒に遊ぶことでコミュニケーションをとることを心がけました。子どもと一緒になって、子どもと同じ目線で気持ちを共有することで、子どもたちの新たな一面を発見することができました。また、子ども同士の関係も大切だと思い、お互いを認め合える関係づくりにも努めました。子どもの心を理解することは実際難しいこともありましたが、寄り添い、共に考え、子どもの心を安定させることで、学校生活も落ち着いて過ごせることを実感しました。まだまだ力不足で、先輩の先生方のような指導はできず試行錯誤の日々ですが、これからも引き続き取り組んでいきたいです。

４　おわりに

初任者としてのこの一年間は、大変貴重な一年となりました。校長先生、教頭先生、学年主任の先生をはじめ花の木小学校の先生方、拠点校指導教員の栗原先生、そして様々な研修でお世話になったすべての先生方のおかげでたくさんのことを学ぶことができました。自分自身が学んだことを教育活動に反映させられるよう、これからも学ぶ姿勢を忘れずに、日々成長する教師を目指し努力していきます。一年間本当にありがとうございました。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立西小学校　教諭　遠山宗則

１　「協力」

始業式を終えて教室で初めて子どもたちと向き合ったとき、教室の狭さ、人の多さに驚きました。昨年度、臨時的任用教員として特別支援学級で一人の児童を担任し、一年のうちの多くの時間を一対一の授業で行って来た私は、三十四人の子どもたちを前にして、すごく不安になったことを覚えています。最初の挨拶で子どもたちに「協力」という言葉を一年間考えて行動してほしいと話しました。子どもたちが考えたクラスの目標も「みんなで協力しあう」に決まりました。これからクラスが一つになって頑張っていく姿を想像し、私もそこで三十四人と一緒に頑張っていければいいと感じました。

一学期が始まってからは、授業や初任者研修など、初めてのことばかりで戸惑うことが多く、落ち着いて考える時間がなかなかもてずに、時間が過ぎていってしまうことが多かったように思います。授業だけでなく、「みんなで協力し合う」ことがなかなかできずに子どもたちからのトラブルや訴えも多く、大変だと感じることが多くなりました。それでもなんとかやってこられたのは、学年主任の先生や管理職の先生、また他の学年すべての先生方からの「協力」があったからだと感じています。先輩の先生方の経験や知識を聞き、実際に見ることで授業の進め方や解決の方法など多くの事を学ぶことができました。

２　「研修」

学校研修の示範授業では、忙しい中時間を割いて授業をしていただき、児童との関わり方や発問など多くの事を学ぶことができました。こうした先輩方の授業を拝見する機会はこれから少なくなってしまうので、この研修で得られたことを生かしていけるよう、考えながら授業の準備や実践を積み重ねていきたいと思います。

機関研修では、一日教室を空けてしまうので、研修しながらも不安になることもありました。同期の先生と協力しながら活動をし、教員としての心構えや技術を学ぶことができました。これらの研修は初任者のために動いてくださっている多くの先生方のおかげで成り立っていることを考え、その方々の気持ちに応えるべく、さらに精進を重ねていきたいと感じました。

３　「二歩目へ向けて」

この一年、毎日忙しい日々を送りました。気がつけばもう終わりを迎えようとしています。この一年多くの先生方から多くの事を学び、少しずつではありますが、自分自身も成長できているように感じます。今年度、教師として踏み出した一歩目が終わろうとしています。これから後退せずに二歩目を踏み出して歩んでいくことができるように、今年度学んだことを生かし、次につなげていきたいと思います。

初任者としての一年を振り返って

秩父市立原谷小学校　教諭　髙田　佳美

１　はじめに

秩父市の就任式に出席してから早くも一年が経とうとしている。始業式の日に、ワクワクした気持ちで自分の教室に入ったことを今もよく覚えている。最初は、なにがなんだかわからないまま一日が終わってしまうような日々が続いた。学校現場のことを何も知らずに学級担任となったこの一年間は、学生時代とは比べものにならないくらいの学びがあり、経験したこと全てが自分の学びになっていると感じている。

２　教科指導を振り返って

２年生の担任となり、教科指導が予想以上に大変だった。まだ２年生、簡単な学習内容で、つまずきも少なく授業を進めていけるのだろう、と思っていた。それは大人の感覚であり、子どもにとって教室は常に新しいことを学ぶ場ということを忘れていたのである。子どもたちに「〇〇ってなあに？」と聞かれる度に、簡単なことを２年生の子どもにもわかりやすく教えるということの難しさを感じた。３５人の子どもたちと関わっていくうちに、会話の段階や、理解の度合いがわかってきて、授業がスムーズにできるようになったのではないかと思う。

授業は、思い通りにできるわけもなく、子どもたちに申し訳ない、と思うこともあった。失敗する度に、他クラスではどのようなやり方でどのような意見を扱い、どのように授業を進めたのかを聞き、それに近づくよう真似をした。次はこうしよう、と気合いを入れ取り組んだ。

３　生徒指導を振り返って

今となって考えると、一学期は子どもたちを叱って押さえつけていたのではないかと思ってしまう部分がある。おしゃべりをしている子どもに対して、「おしゃべりをする時間じゃないよ」とその子に向かって言っていた。よくできている子をほめて、おしゃべりをしている子が静かになるということに、気付くのが遅かったのだ。「〇〇さんが、静かによい姿勢で聞いているね」と言うだけで回りの子もその子の真似をする。それに気付いてからは、子どもをほめることを何よりも大切にした。日直が号令をかけるときも、「授業の始めから注意を聞くのはあまり気持ちのよいものではありません。いいな、と思った友達をほめてあげましょう」と約束をした。日直は「〇〇さん、姿勢がいいです」とすぐに友達のよいところを見つけ始め、自分も名前を呼ばれるようになるぞ、と子どもたちの学習の態度がとてもよくなった。給食、掃除、基本的な生活習慣、友達との関わり方、全てにおいて、ほめることは大切なことである。挨拶ひとつをとっても、一言声をかけてあげるだけでその子のできることがまた一つ増えるのだ。

４　おわりに

４月からの学校生活が本当に充実していて、こんなに早く一年を振り返らなければならない時期がくるとは思ってもみなかった。たくさんの経験や学び、仕事の楽しさやおもしろさを得ることができたのも先生方によるご指導・ご支援、子どもたちが私を呼ぶ声、保護者・地域の方々からのご協力があったからである。来年度、胸を張って「教員２年目です」と言えるように、初任者としての残りわずかな学校生活をより充実させたい。本当に一年間、ありがとうございました。

初任者としての一年を振り返って

秩父市立高篠小学校　教諭　大島悠史

1　はじめに

「憧れの先生のようになりたい」と思い、ずっと目指してきた小学校教員の道を歩み始めてから、早１年が過ぎようとしています。私にとってこの１年は、すべてのことが初めてづくしの特別な１年でした。そして、先生方には様々な場面で支えていただきました。また、子どもたちからの考えもつかない発想に驚き、感動し、笑顔で楽しみながら学ばせてもらい、とても充実した１年だったと感じています。

2　指導を振り返って

（1）教科指導

小学校教員はすべての教科を指導するということでとても不安がありました。実際にやってみると、授業の難しさを感じる一方で、児童の「できた・わかった」の笑顔を見ることができるところから授業の面白さも感じました。毎日の教材研究で、どうすればより理解させることができるのだろうかと試行錯誤を繰り返しました。自分で考えるには経験も少ないのでたくさんの先生方の授業を参観して多くのアイディアを学びました。先生方のすべての技術を真似できるはずはないのですが、何か１つでも自分ができそうなものを実践してきました。そうすることで、児童にたくさんの成功体験を積ませることができると感じました。この経験を生かし、生涯学び続ける姿勢を大事にし、初心を忘れることなく日々精進していきたいです。

（2）生徒指導

私が一番大切に考えていたことは、「いつでも笑顔」でいることでした。教師の方から笑顔になれば子どもたちも笑顔になります。学校に行きたい、もっと学びたいという気持ちにさせるよう心がけてきました。また、気持ちのよいあいさつや授業や休み時間でのオンとオフなど様々なことを実践し、生徒指導の方法も多くの先生から学ばせていただきました。適切な指導方法を実践していけるよう、今後も努力していきたいです。

3　おわりに

憧れていた教員生活がはじまり、何もかもが新鮮な日々の中で、上記でも述べたように、先生方との関わりから授業づくりや学級経営、子どもたちのほめ方、しかり方など様々なことを経験し、学びました。また、教師としてだけでなく、人として、社会人として成長することができました。今後も、自分自身が学んだことを子どもたちの教育活動に反映させられるよう、常に学ぶ姿勢を忘れずに日々精進していきたいです。校長先生をはじめ、指導者の先生方、研修や多くの場面でお世話になった先生方には、多忙な中ご指導していただきありがとうございました。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立吉田小学校　教諭　黒沢恵理

１　はじめに

４月から初任者として吉田小学校へ赴任し、早くも一年が終わろうとしています。ドキドキしながら迎えた始業式の日、元気よく３年２組の教室に入ると、子どもたちも元気な声で「おはようございます！！」と迎えてくれました。きらきらした子どもたちの目を見て、今日から自分がこの２１人の担任になるのだという、嬉しさと同時に責任の重さを感じたのを覚えています。このような出会いから始まり、先輩の先生方や子どもたち、保護者の方々に助けられ、多くのことを学んだ一年になりました。

２　学級経営と生徒指導

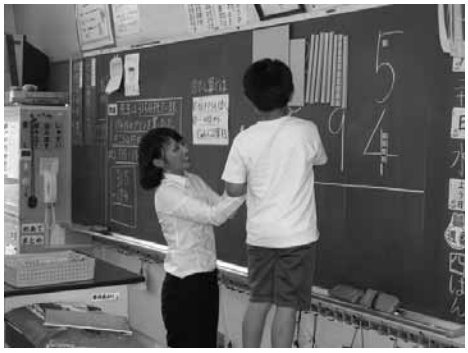
初めて担任をもち、子どもたち全員が居心地のよい「温かい学級」を目指して学級経営に取り組んできました。どんな時でも、子ども一人一人との会話を大切にし、笑顔で接するように努めてきました。また、係活動や当番活動への声かけも積極的に行い、クラスのために働くこと、協力することの大切さを伝えてきました。思うようにいかないこともたくさんありましたが、そのたびに学年主任をはじめ、多くの先生方にアドバイスをいただきながら、学級経営や生徒指導について学ぶことができました。

３　教科指導

この一年間、最も苦労したのが教科指導でした。「分かりやすく楽しい授業」を目指し、日々取り組んできましたが、最初は子どもに伝えたいことがうまく伝わらず、子どもの考えをうまく引き出すこともできず、悔やんでばかりでした。その中で、先輩の先生方の授業を参観させていただいたり、先生方に授業を見ていただいて指導していただいたりしながら、それぞれの教科の奥深さや効果的な指導方法を学ぶことができました。子どもたちの「できた！」「わかった！」「楽しい！」という声がたくさん聞ける授業にするために、教材研究を重ね、児童の実態に合った発問や活動を工夫していくことが大切であることを学ぶことができました。

４　おわりに

初任者研修では、校内での研修だけでなく、教育センターや様々な施設での研修を通して、教師にとって大切なことをたくさん学ぶことができました。このような経験ができたのも、多くの先生方の支えがあったからだと思います。



困っているときに助けてくださった先生方や、温かく見守ってくださった保護者や地域の方々、そしてなによりも毎日笑顔で元気をくれた子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいです。この思いを忘れることなく、これからも子どもたちのよりよい成長のため、自己研鑽に励み、精一杯教育活動に取り組んでまいりたいと思います。一年間ありがとうございました。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立秩父第一中学校　教諭　新井　由里

１　はじめに

２０１２年４月。夢であった中学校保健体育科の教師として秩父第一中学校に着任した。昨年から引き続きの一中勤務ということもあり、子どもたちや先生方とも顔見知りという恵まれた環境の中でのスタートとなった。３学年の学級担任も任され、クラス全員が笑顔で卒業式を迎えられるように精一杯頑張ろうと決意してから、あっという間に１年が過ぎようとしている。

２　学級担任として

３年３組の担任になり、初めて子どもたちの前に立った時、いよいよこの子たちとの１年間が始まるんだなというワクワク感と学級経営や進路指導などに対しての不安も入り混じった気持ちであった。３８人の子どもたちとスタートを切ったものの正直不安な毎日であった。そんな私を助けてくれたのは３組の子どもたちであった。毎日元気いっぱいで明るく、時にははめをはずすこともあり、笑ったり怒ったり泣いたり一日一日がとても充実していた。中でも２学期の文化合唱祭は思い出深いものとなった。３組は「虹」という曲に取り組むことになり、練習が始まったがなかなか気持ちがまとまらず、ぶつかることも多かった。なんとか気持ちを立て直し一致団結して本番に臨んだ。結果は入賞ならず。帰りの会に向かう途中なんと声をかけようか考えていると、なにやら教室で準備をしている様子が見えた。教室に入ると、そこには並んで立っている子どもたちがいた。びっくりしている私を前に、学級委員が「結果は入賞できなかったけど、最後に先生のためにもう１回歌います。」そういって、もう一度「虹」を歌ってくれた。一生懸命、歌ってくれる子どもたちを見て思わず涙が出た。最高のプレゼントを貰い、忘れられない思い出となった。

３　教科指導について

３年生と１年生の保健体育を担当し、毎日が勉強の日々であった。どうすれば、子どもたちにわかりやすく伝えることができるのか、その運動の楽しさを味わわせることができるのか、先輩の先生方の授業を見せて頂いたり、ご指導を頂いたりして多くのことを学ぶことができた。声かけ一つとっても工夫次第で子どもたちのやる気をもっと引き出せることや、道具や練習場所を工夫したりすることで身に付き方が違うということを知ることができた。また、初任者研修では、授業を進めていく上でのポイントや様々な指導方法を教えて頂いた。自分があまり経験のない種目の研修もありとても参考になった。まだまだ、未熟な部分が多くうまくいかないこともあるが、学び続ける姿勢を忘れず、子どもたちの「できた。」「わかった。」「楽しい。」「おもしろい。」をたくさん引き出せる教師となれるよう努力していきたい。保健体育の授業を通して体を動かすことの大切さや楽しさ、仲間と協力する楽しさなどをしっかりと伝えていけるように１時間１時間の授業を大切にし、自分自身の指導力を高めていきたい。

４　おわりに

この一年間、本当に多くの方に支えられてきた。校長先生をはじめとする第一中学校の先生方や保護者、地域のみなさん、初任者研修でお世話になった先生方、そして、私を成長させてくれた子どもたちにも感謝の気持ちでいっぱいである。一年間で学んだことをしっかりと生かし、子どもたちに必要な力をきちんと身につけさせることができる教師となれるよう、何事にも一生懸命に取り組む姿勢と感謝の気持ちを忘れず、日々学び続けていきたい。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立秩父第一中学校　教諭　田端　香

１　はじめに

今まで生きてきた中でも本当に忙しい１年が過ぎようとしています。毎日が目まぐるしい日々で１日として同じ日はなかったように思えます。ここでこの１年を振り返ってみます。

２　学級経営

初めての学級経営は分からないことの連続で、いつも学年の先生方に聞いたり、周りの先生方の様子を観察したりしながら毎日を乗り切っていました。がむしゃらに生活している中で感じたことは、生徒達はとてもかわいいのですが、まだまだ幼さの残る年頃なので、周りの大人がしっかりサポートしていかないといけないということでした。生徒同士の人間関係のトラブルが本当によく発生しましたが、学年の先生方と１つ１つ丁寧に対応していくことを心がけました。

３　教科指導

英語好きな人を少しでも増やすためには最初が肝心だと思い、試行錯誤を重ねて毎回の授業に取り組みました。それでも生徒にとって外国語を理解することは難しく、私は教えるということの難しさを実感しました。しかし全てを教え込むことは不可能なので、英語は努力次第でできるということを特に「読む」という分野に絞って伝えてきました。苦手な教科でもこれはできるという一種の自信を持つことで、生徒とその教科のつながりを保ち続けられると信じています。つながっていればいつかその教科の違う良さにも気づくことができると思っています。

４　部活動指導

私は男子・女子バスケットボール部副顧問の担当になり、経験豊富な主顧問の背中を見ながら生徒の指導にあたってきました。自分自身が中学生のときにバスケットを経験したとはいえ、指導経験はゼロということもあって、とても不安でした。でも、ある先生から「教えるのは技術だけではない、礼儀作法や人間関係のあり方、努力する姿勢を教える方が大切だ」と言われたときには私にもできることはあると思えました。これからも私のできることを確かめながら生徒達と向き合っていきたいと思います。

５　おわりに

途中で何度もくじけそうになりましたが、本当に色々な方々の支えがあってここまでやってこられました。大変なのは私だけではないし、私は一人ではないと実感できて、今は自分のできることを精一杯頑張ろうと思います。常に初心を忘れず、謙虚な気持ちで学び続けていきたいと思っております。

初任者として過ごした１年

～私が目指す教師像～

秩父市立尾田蒔中学校　教諭　横田　淳

初任者として今年１年間は、たいへん貴重な時間を過ごせていただいた。そして、校長先生をはじめ私に研修や指導をしてくださった先生方にたいへん感謝している。また、初任者研修を通して様々な知識を得たりすることができ、本当に充実した１年間であった。私は中学生のときに、中学校の教師になろうという夢を持った。教員採用試験に合格し、念願の教師になることができた。臨時的任用教員として、数年間働かせていただいていたが、試験に合格して職についた今年は、何か今までと違う感覚があった。より一層の責任や使命を背負うことになることや、数年間を見通して生徒を教育できることが、その感覚につながるのではないかと思う。

私は、研修を受ける度に「どんな教師を目指そうか。」とよく考える。結論はまだ出ていない。こんなときによく思うことは、教師を目指したきっかけである。私は、中学生のときにお世話になった担任の先生や部活動の顧問の先生のようになりたいと思った。それは、身体も小さく、何かやりたいけど一歩引いていた私を上手にコントロールしてくれて、成長させてくれたからである。研修での講義を聞いていると、当時の私が尊敬する先生の考え方や授業に似たことが紹介されることがある。『まなぶ』の語源が『まねる』から来ているといわれるように、その先生方のようなスタイルを目指していこうと、思い初めている。私が感じたその先生方のスタイルは、「こだわりを持つ中にも個に応じた指導をされていること」や「授業や学活でどんな生徒にもわかるように説明されたり、指示を出されていること」である。私はまずこのスタイルの確立を目指して努力していこうと思う。

努力点

１　こだわりを持つ中にも個に応じた指導をすること

信頼される教師は、ブレないが生徒個々をしっかりとわかっていると思う。従って次のことを努力していこうと考える。

・規律をしっかりと守らせる。ダメなものはダメとしっかり指導できる。
・生徒の意見もしっかりと聞いてあげる。
・複数の生徒に同じ内容のことを指導・助言するときでも、様々なことを配慮して行う。
　（例）　たくさんほめて伸ばす。
　　見守りつつ、ポイントでしっかり指導する。

２　授業や学活でどんな生徒にもわかるように説明したり、指示を出すこと

学校生活のほとんどは授業である。授業を大切にすることは、信頼される教師にも繋がるので、次のことを努力していこうと考える。

・指導計画をしっかりと立て、教材の準備をきちんとする。
・実際に教えること以上の情報や知識を蓄えておく。
・生徒の興味・関心が高まるように、授業の導入を大事にする。
・短いことばで端的に説明する。

初任者としての１年を振り返って

～私の授業実践と感想～

秩父市立尾田蒔中学校　教諭　笠原麻衣

１　はじめに

幸いにも地元である秩父で初任者研修を受けることができ、とても恵まれた１年だった。初任者研修を通し、生徒の意欲を高める授業を行うためには、日々努力を積み重ね自分の資質を高めていくことが大切であると改めて学ばせていただいた。

２　教科指導について

生徒全員が楽しんで取り組める活動の実践を心がけ、「エクササイズ」を取り入れた。内容は、犬の発声・早口言葉・ブレス伸ばし・ローソク消し・紙鳴らしである。楽しみながら取り組める活動を行うことにより、生徒の心が解放され、大きな声で楽しんで歌う姿が見られるようになってきた。また、歌う時の口の開け方などを具体的に示すために、言葉だけではなく実際に指３本棒を作成し、生徒の意識を高めた。さらに、「注意」や「注目」などの札も作成し、生徒同士で気付き互いに注意ができる環境を作ることの大切さを学んだ。教室には、「授業規律について」「歌う姿勢」「合唱のポイント」など参考となる掲示物を増やし、視覚的にわかりやすい工夫を行った。

３　道徳教育について

本校は、今年度道徳教育研究推進モデル校の指定を受けており、学校全体で道徳の研修を行う機会が多く、道徳の授業の経験がない私にとってとても勉強になる１年だった。今年度は学級を持っていなかったが、授業参観で道徳の授業を行わせていただき、生徒への発問を具体的に行うことや、授業の流れが一目でわかるような板書を行うことの大切さを学んだ。資料分析表を用いて発問を導き出すことで、生徒に問いかけたいことが明確になり、その上で授業を進めることで、より生徒の考えを深めさせることができると感じた。また、板書計画を作成することで、ポイントを絞った授業を展開することができることを学んだ。

４　１年を振り返って

たくさんの「出会い」に恵まれた１年だった。なかなか思うようにいかないことも多く、自分の力のなさに落ち込むこともあったが、たくさんの先生方に支えられ、なんとか１年を終えようとしている。指導教員の先生方も、いつも親身になり的確なアドバイスや指導をしてくださり、恵まれた環境で研修を受けることができたことに対し、改めて感謝の気持ちでいっぱいである。また、生徒の笑顔には、いつも元気をもらった。同時に、生徒が持っている力の大きさに驚かされもした。

まもなく研修が終わる。初任者研修で学ばせていただいたことを生かし、生徒が生き生きと活動できるような授業を展開できるよう、常に自己研鑽に励み、生徒とともに成長できる教員をこれからも目指していきたい。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立高篠中学校　教諭　福島　孟

１　はじめに

秩父市立高篠中学校に赴任して、まもなく１年が経とうとしている。社会人としても、教師としても１年目の私にとって、学び続ける１年であった。初めての授業、初めての部活動指導、初めての行事、教師として生徒の前に立ったとき、とても感慨深いものがあった。しかし、新卒採用の私は副担任の仕事も、生徒指導も、何も分かっておらず、その度に多くの先生方に支えられながら今日まで教師を続けられた。また、初任者研修を通して、教師としての成長をすることができた。私を支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきたいと思う。

２　教科指導について

初めての授業、私は期待で胸を膨らませ、緊張した面持ちで教壇に立った。生徒は積極的で気持ちの良い子ばかりで、授業はあっという間に終わった。その後も授業を重ねていくなかで、教えることの難しさを感じるとともに、授業に自信を持てなくなっていった。自分の授業は子どもたちの力になっているのだろうか、どうしたらわかりやすい授業ができるのだろうか。思い悩むなかで、その答えは研究授業をしたときにわかった。私の授業には余裕がなかった。余裕がなければ、生徒の様子を把握するのは難しくなる。校長先生や教頭先生、教科指導の先生との研究協議は自分がすべきことを明確にすることができた。他の先生の授業を参観し、教材研究や研修をしていくことで、自身の授業の向上を図ることができた。生徒にとって、私が初任者であることは関係なく、三年間という時間のなかで、私の成長を待つこともできない。研修を通して少しでも多くのことを学び、授業につなげていきたい。

より良い授業作りのためには、生徒との信頼関係を築くことが必要である。信頼関係が築けていれば、生徒は間違いを恐れず、より積極的で活発になり、理解しようとする生徒も増えてくる。授業のほか、信頼関係を築く場面は、部活指導や生徒指導など、多々ある。生徒と多くの時間を共有し、寄り添い、共に考えていくことで、学びの深い授業にしていきたい。

３　終わりに

すべては生徒のために。教師の自己満足で終わるのではなく、生徒の視点で考える授業をこれからもしていきたい。また、未熟者である私が一年を終えられるのも、校長先生や教頭先生をはじめとする多くの方々の支えがあったからこそである。感謝の気持ちを忘れず、教師としての自分が成長することで恩返しをしていきたい。また、機関研修のなかで出会った仲間は、共に学び、共に考え、私にとって大切な存在となった。これからもまた、ともに成長していきたいと思う。この１年は学び続ける精神が私の柱となった。何年経とうとも、これからも学び続ける教師でありたい。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立影森中学校　教諭　金子真莉絵

１　はじめに

臨時的任用教員としての期間の経験を生かしつつ、秩父市立影森中学校の初任者として初心に返り１から学ぶと決意してからあっという間に１年が過ぎた。私は３学年の副担任として、学年主任や担任の先生方と連携して動き、同じ考えを共有し生徒に接することで、生徒が充実した学校生活が送れることを学んだ。担任をもった時に、この経験を生かしたい。また、素直で明るい生徒達の一生懸命に学ぶ姿、成長していく姿を間近で見ることができ、改めて教師という職業の魅力を感じることができた１年だった。

２　初任者研修について

初任者研修は、教師としての姿勢や生徒指導の方法等、教師の仕事の基本を教えていただいた。多くの先輩の先生方から講義や指導を受けて、貴重な体験ができた。これから先、悩んだときは、初任者研修で学んだことを振り返って生かしたい。また、同期の仲間と悩みを共有し相談し合ったこともたくさんある。この同期との出会いを大切に、これからも互いに切磋琢磨しあえる仲間でいたい。

３　教科指導について

教師の１番の仕事は授業力だと思う。担当教科をしっかり教えることができて、他の仕事が成り立つと考える。今年度、担当教科の数学では、１学年と３学年を少人数指導、２学年は一斉指導を行った。初めて３学年を同時に受け持つことになり、教材研究が十分にできるのかと考えたら最初はとても不安だった。教材研究では、生徒の立場に立った板書計画や、生徒にわかりやすい発問を考えた。しかし、クラスの実態に応じて同じように授業を行うことは出来ないので、毎時間の授業が勉強であった。今は３学年を同時に受け持つ経験ができて良かったと思う。少人数指導では、２５名程度の習熟度別の授業を行ったが、２学年は４０名弱おり、全員まで目が行き届くにはどのように指導したらよいか毎時間悩んだ。人数が多いと、どうしても全員が「わかった」「できた」となることは難しい。既習事項が理解できていなくて授業についていくことが難しい生徒もいた。その生徒には、テスト前に補習を行い個別に対応した。これからも実践的な研究を継続し、生徒の指導に生かしたい。

４　終わりに

教師が誰よりも元気で、率先垂範しなければならないのだが、生徒の笑顔に元気をもらい過ごした１年だった。私が生徒の手本となるように努め、生徒理解に努め、未来を担う生徒を育成する為に日々研鑽していきたい。

そして、この１年は多くの先生方に支えられ、助けていただきながら過ごしてきた。自立することで恩返しをしていきたい。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立荒川中学校　教諭　髙橋雄大

１　初めての担任

昨年４月２日のことを今でも鮮明に覚えています。それは、長年抱いていた夢が実現したからです。校長先生から「担任を頼む。」とお話をいただいた時、人生最大の喜びを手にしました。しかしながら、「私に担任が務まるのだろうか。」「子どもたちに何を伝えていくべきか。」などと、喜びと同時に、大きな不安も抱きました。

そんな中、入学式の日を迎えました。自分が受け持つクラスの子どもたちとの出会いの瞬間でした。とても緊張しましたが、子どもたち一人一人の顔を見たら、不安は一気に吹き飛びました。「不安に思っている場合ではない。子どもたちのために、一生懸命やるだけだ。」と思うようになり、子どもたちが不安をかき消してくれたのでした。

「自分のクラスの子を立派にしたい。荒川中学校の生徒たちのために全力で頑張りたい。」といった強い気持ちを持って、子どもたちと一生懸命向き合っていきました。本当に担任は良いものです。物事をみんなで一緒に作り上げることができたり、一生懸命やればみんなで分かち合えたりなどと、喜びは何倍にもなり、悲しみは緩和されるのです。

これらの気持ちを一生忘れることなく、これからも教育に当たっていきます。

２　荒川中に感謝

荒川中の先生方、保護者の方々、地域の皆様に大変支えていただきました。先生方にはお忙しい中、厳しくも温かいご指導や校内研修をしていただき、「教育は一人ではできない。職員全体で力を合わせていく必要がある。それが一番子どもたちのためになる。」といったチームワークの最大の魅力を教えていただきました。保護者・地域の方々には、ご理解やご協力をいただき、安心してかつ思いっきり教育に当たることができました。ここぞという時には全力でバックアップしていただいたり、爽やかなあいさつをいただいたり、温かく見守っていただくことで、元気をいただきました。

荒川中の先生方、保護者の方々、地域の方々がいつも周りにいますので、非常に心強いです。感謝の気持ちを忘れずに、日々学校生活を送っていきます。

３　価値ある機関研修

機関研修で主に２つのことを学びました。一つは、技術や技量の向上、様々な知識の習得により、教員としての自覚や使命感を教えていただきました。常に研究と修養に励み、自分の力を磨いていくことが、子どもたちの成長にもつながるのだと思いました。

二つ目は、「横のつながり」です。同じ初任者の先生方と、共に学び、共に考えることで、悩みを共感したり、自分と同じ意見を聞いたりできました。助けていただく場面がたくさんあり、とても頼りになりました。回を重ねるごとに、交流を深め、仲が良くなりました。初任者研修が終わってしまうと、会う機会が減るといったことも聞きました。ですが、横のつながりを大事にし、これからも共に切磋琢磨できるよう工夫をしていきます。

平成24年度

秩父市学校創造スーパープラン

～基本理念～

笑顔とあいさつ　思いやりと感動　志高き

秩父大好き人間の育成

～基本目標～

未来の秩父を担う人材の育成と特色ある元気な学校づくりの推進

～指導の重点～

確かな学力と創造力

- ○学習意欲の向上
- ○知識・技能の確実な習得
- ○思考力・判断力・表現力の育成
- ○家庭学習・読書活動の推進

◇創意工夫した分かる授業の推進
◇「教育に関する3つの達成目標」の推進
◇繰り返し学習による基礎・基本の定着
◇教科等の特性に応じた言語活動の充実
◇環境教育の充実
◇家庭学習の習慣化を図る取組の推進
◇読書習慣の確立を図る取組の推進
◇各種検定等への積極的な参加
◇学習環境の整備

豊かな人間力と健やかな体

- ○積極的な生徒指導の推進
- ○道徳教育・人権教育の推進
- ○特別支援教育の推進
- ○健康の増進と体力の向上

◇信頼関係に基づく積極的な生徒指導の推進
◇学年・学級経営の充実
◇心に響く道徳の時間の指導の工夫
◇人権感覚を高める人権教育の推進
◇就学支援に係る幼保・小の連携推進
◇主体的に粘り強く取り組む体育授業の実践
◇体育的活動・健康教育・食育の充実
◇安全教育・防犯教育の充実
◇規範正しい生活習慣の育成

秩父ならではの特色ある教育活動

- ○秩父のよさを実感できる体験活動の推進
- ○伝統芸能・文化の継承と人材育成
- ○学校・家庭・地域の連携強化

◇秩父発見・体験学習事業の推進
◇へき地・小規模校のよさを生かした教育の推進
◇地域の伝統芸能を体験する機会の充実
◇学校ファームを活用した農業体験の推進
◇望ましい勤労観・職業観の育成
◇3つのめばえに基づく幼児教育の推進
◇幼保・小・中・高の連携推進
◇家庭や地域と連携した開かれた学校づくりの推進
◇子育てに関する親の学習の推進

学校教育活動充実のための支援

- ・学校訪問・要請訪問での支援
- ・学校補助員の配置
- ・外国語指導助手（ALT）の配置
- ・学校図書館の整備と市立図書館による支援
- ・学校施設の改修・改築と耐震化

- ・生徒指導に係る学校訪問での支援
- ・中学校さわやか相談員の配置
- ・適応指導教室の開設と臨床心理士の活用
- ・特別支援教育補助員の配置
- ・体育的活動での外部指導者の活用支援

- ・ジオパークを活用した体験学習への支援
- ・学校ホームページの整備
- ・学校支援地域本部の教育力の活用支援
- ・学童保育室・ふれあい学校の管理運営
- ・秩父市教育アドバイザーの活用支援

各種推進委員会

○学力向上推進委員会　○いじめ・不登校対策推進委員会　○特別支援教育推進委員会　○体力向上推進委員会

教職員対象研修会・事業

【授業づくり研修会】
- ○小学校外国語活動研修会
- ○外国語指導助手担当者連絡会議
- ○外国語指導助手研修会
- ○中学校区要請訪問交流

【初任者・経験者研修会】
- ○初任者研修施設体験研修
- ○5年経験者研修社会貢献活動研修

【管理職等研修会】
- ○学校経営充実・改善研修会

【学校経営参画意識を高める研修会】
- ○教師力向上研修会

【個を大切にする研修会】
- ○いじめ・不登校対策研修会
- ○学校カウンセリング中級研修会
- ○さわやか相談員等研修会
- ○人間関係づくりに係る研修会支援

【調査研究事業】
- ○各種教育課題に関する調査・研究
- ○研究協力員の委嘱

小・中学生対象講座・事業

【学力向上講座】
- ○学力向上チャレンジスクール
- ○小学生と高校生のふれあい体験
- ○中学生フォローアップ・スクール

【秩父の魅力発見講座】
- ○理科おもしろ実験教室

【ちちぶ学士・博士等称号授与事業】
- ○子どもちちぶ学士・博士
- ○子ども伝統芸能・芸術文化伝道師
- ○子どもスポーツマスター

秩父市教育委員会【〒368-0028　秩父市大宮794番地6】　http://www.city.chichibu.lg.jp/menu1898.html

○教育総務課（☎ 25－5227）　○学校教育課（☎ 25－5228）　○保健給食課（☎ 22－2443）
○文化財保護課（☎ 22－2481）　○教育研究所（☎ 22－2446）　○秩父図書館（☎ 22－0943）